KENWOOD

MP3/WMA/AAC/WAV対応CDレシーバー

U929

取扱説明書

お買い上げいただきましてありがとうございます。
ご使用の前に、この取扱説明書をよくお読みのうえ、
説明の通り正しくお使いください。
また、この取扱説明書は大切に保管してください。
本機は日本国内専用モデルですので、外国で使用することはできません。

株式会社 ケンウッド

Kenwood Corporation

© B64-3766-00/00 (JW)

Contents

この取扱説明書の読みかたや、全般的な注意事項が書いてあります。最初に一読してください。

ここを読めば、ひととおり操作できます。

各ソースのいろいろなプレイ方法が書いてあります。ちょっと慣れたら読んでください。

本機のいろいろな設定や調整方法が書いてあります。

リモコンで本機を操作する方法が書いてあります。

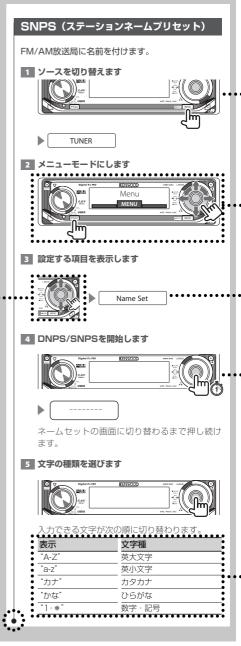
トラブルの解決方法などが書いてあります。思いどおりに動かないときに読んでください。

「オーディオファイル」とは？

本書に書かれている「オーディオファイル」や「Audio file」とは、USBデバイス、iPod、CD-R/RWや内蔵メモリーに記録されたAAC, MP3, WMA, WAVファイルのことです。詳しくは「Help? Audio file」(p60) をご覧ください。

本書の読みかた

この説明書では、イラストを使って操作を説明します。

取扱説明書に記載されているディスプレイ部やパネルの表記、ファンクションコントロールの表示は操作説明を円滑に行うための表示例です。
このため、実際の機器とは異なることや、実際にはありえない表示パターンが記載されていることがあります。

▼：次の段に続きます。
●：ここで終わりです。

上記マーク表記例は実際の操作とは異なります。

短く押す

で示したボタンをチョンと押す。

ファンクションコントロール

ファンクションコントロールモードにして、操作するアイコンを選択することを表します。
操作方法は「ファンクションコントロールの操作」（p14）をご覧ください。

左記では“MENU”を選んで決定します。
また、「“DISPLAY”＞“TEXT”と選択します」と説明されている場合は、“DISPLAY”を選んで決定したあとに、“TEXT”を選んで決定します。

1秒以上押す

で示したボタンまたはノブを1秒（または2秒/3秒）以上押す。

動作が始まるまで、または画面の表示が変わるまでボタンを押し続けることを表しています。
左記では1秒間押すことを示しています。
押す秒数は記載された数字を目安にしてください。

表示の切り替わり

操作するたびに、ここに示した順番で表示が切り替わります。

その他のマーク

ケガなどを防ぐための大切な注意事項が書かれています。

特記事項や補足説明、制限事項や参照ページなどが書かれています。

その項目での全般的な注意事項や参照ページなどが書かれています。

ディスプレイ表示

この表示になるまで左の操作を行います。

インジケーター表示について

本書に「＊＊インジケーターが点灯します。」と説明されている場合があります。インジケーターの表示は「ディスプレイタイプ設定」（p40）のステータス表示をご覧ください。

安全上のご注意

製品を安全にご使用いただくため「安全上のご注意」をご使用の前によくお読みください。

絵表示について：
この取扱説明書では、製品を安全に正しくお使い頂き、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止する為にいろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

注 意

△記号は注意（警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。近傍に具体的な注意内容が描かれています。

禁 止

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

実 施

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。近傍に具体的な内容が描かれています。

お客様または第三者が、この製品の誤使用、使用中に生じた故障、その他の不具合またはこの製品の使用によって受けられた損害については法令上の賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

交通事故の発生を防ぐため、必ず以下の事項をお守りください。

実 施

運転者が以下のような行為をするときは、必ず、安全な場所に車を停車させてから、行ってください。

● カーオーディオの操作（音量調節、ディスクの挿入やUSBデバイスの取り付け・取り外しなど）

実 施

運転中の音量は、車外の音が聞こえる程度でご使用ください。

実 施

USBデバイスは運転に支障をきたさないような場所に固定してください。

以下のような異常があった場合は、直ちに使用を中止し、購入店、ケンウッドサービスセンター、または営業所へご相談ください。そのまま使用すると、火災その他の事故の原因となります。

- 音が出ない
- ディスプレイが表示されない
- 異物が入った
- 水がかかった
- 煙が出る
- 変な匂いがする

禁 止

修理は必ず購入店、ケンウッドサービスセンター、または営業所にご依頼ください。
お客様による修理は、火災その他の事故の原因となります。

禁 止

本製品の分解や改造はしないでください。
火災その他の事故の原因となります。

⚠注意

禁 止

ディスク挿入口に手や指を入れないでください。ケガをすることがあります。

禁 止

本製品内に水や異物を入れないでください。発煙、発火、感電の原因となります。

禁 止

本製品は、車載用以外としての用途では使用しないでください。

禁 止

本製品に、強い衝撃を与えないようにしてください。
ガラス部品を使用しているため、割れてケガをするおそれがあります。

実 施

本製品の取り付け・配線は技術と経験が必要です。
安全のため<お買い上げの販売店>にご依頼ください。

USBデバイスのご使用上の注意

USBデバイスを車内に放置しないようにしてください。直射日光や高温などの影響により、USBデバイスが変形や故障する場合があります。

●

本機で使用するオーディオファイルはバックアップをしてください。USBデバイスの使用状況によっては保存内容が失われる場合があります。保存データが失われたことによる損害については、当社はその補償を一切いたしません。あらかじめご了承ください。

●

本製品にUSBデバイスは付属されていません。別途、市販品を購入してください。使用できるUSBデバイスについては「Help? Audio file」（p60）を参照してください。
USBデバイスの詳細な対応機器については、URL：www.kenwood.com/usb/をご覧ください。

●

USBケーブルを延長してUSBデバイスを接続するときは、CA-U1EX(別売品)の使用を推奨します。
USB規格以外のケーブルを使用した場合は動作保証できません。ケーブルの総延長が５m以上になると正常にプレイできない場合があります。

●

USBハブを介してUSBデバイスを認識させることはできません。

お手入れについて

本機の前面パネルが汚れたときは、シリコンクロスか柔らかい布でから拭きしてください。汚れがひどいときは、中性のクリーナーを付けた布で汚れを落とし、その後洗剤を拭き取ってください。
スプレー式のクリーナーなどを直接本機に吹きかけると、本機の機構部品に支障を与える場合があります。また、固い布やシンナー、アルコールなどの揮発性のもので拭くと、傷が付いたり文字が消えることがあります。

U929に接続できるシステムについて

本機には、1998年以降に発売のケンウッド製ディスクチェンジャー、LX-BUS接続のTVモニターやナビゲーションシステムが接続できます。接続できるディスクチェンジャー、LX-BUS接続のTVモニターやナビゲーションシステムの機種はカタログをご覧ください。

●

本機およびKCA-S220Aには1997年以前に発売のケンウッド製ディスクチェンジャー/CDプレーヤー、および他社製のディスクチェンジャーは接続できません。接続すると、破損や故障の原因となります。

●

“O-N”スイッチの付いているケンウッド製ディスクチェンジャーは“N”側に設定してください。

●

接続している機種により、使用できる機能や表示できる情報が異なる場合があります。

●

別売品のCD/MDチェンジャースイッチングユニット“KCA-S220A”を使用するとディスクチェンジャーを2台まで、またはディスクチェンジャーとLX-BUS接続の機器を１台ずつ接続することができます。接続などの詳しい説明は「接続」（p72）および、KCA-S220Aに付属の取扱説明書をご覧ください。

使用できるリモコンについて

本機で使用できるリモコンについては、カタログをご覧になるか、購入店にお問い合わせください。なお、操作方法はリモコンに付属の取扱説明書に記載されています。

異常にお気づきのときは

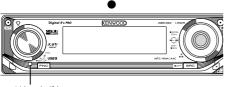
本機の異常にお気づきのときは、まず「Help? Troubleshooting」（p62）および「Help? Error」（p68）を参照して解決方法をお調べください。解決方法が見つからないときは、本機のリセットボタンをペン先などで押してください。

●

リセットボタンを押す前に、USBデバイスを取り外してください。
USBデバイスを取り付けたままリセットボタンを押すと、USBデバイスのデータが破損する場合があります。USBデバイスの取り外しかたは「USBデバイスを取り外します」（p17）をご覧ください。

●

リセットボタンを押す前に、録音や転送を中止してください。
録音中や転送中など内蔵メモリーに書き込みをしているときにリセットボタンを押すと、内蔵メモリー内のデータが破損する場合があります。録音中止や転送中止の操作は「音楽CDを録音する」（p22）と「USBデバイスから転送する」（p24）をご覧ください。

●

リセットボタン

●

リセットボタンを押しても正常に戻らないときや、下記のような場合は、本機の電源をオフにして、購入店またはお近くのケンウッドサービスセンターへ相談してください。

- CDが取り出せない。
- CDを正しく入れ直してもインジケーターの点滅が続く。
- ディスクチェンジャーを接続しているのにディスクチェンジャーモードにならずに“AUX　EXT”と表示される。
- KCA-S220A、CA-C1AX/CA-C2AXが接続されていないときに“AUX EXT”と表示される。

オートアンテナ付き車に取り付けた場合

ラジオのアンテナが自動的に伸びるオートアンテナ車に取り付けた場合、ラジオソースにしたり交通情報機能をオンにすると、車両のアンテナが自動的に伸びます。
天井の低い車庫に入る場合は、本機の電源をオフにするか、FM/AM放送以外のソースに切り替えてください。

結露について

寒いときにヒーターを付けた直後など、本機の内部に露（水滴）が付くことがあります。これを結露といい、この状態ではディスクの読み取りができなくなります。
このようなときは、ディスクを取り出して約1時間ほど放置すると、結露が取り除かれます。
もし、何時間たっても正常に作動しない場合は、購入店またはケンウッドサービスセンターへ連絡してください。

温度について

直射日光下で窓を閉めきっていると、自動車内は非常に高温になります。
本機内部が60℃を超える高温になると、保護回路が動作してディスクの演奏ができなくなります。
このようなときは、車内の温度を下げてください。
保護回路機能が解除され、演奏ができる状態になります。もし正常に動作しないときはリセットボタンを押してください。

レンズクリーナーについて

レンズクリーナーは使用しないでください。光学系部品に損傷を与えたり、イジェクトができなくなるなど、故障の原因になる場合があります。

デモンストレーションモードについて

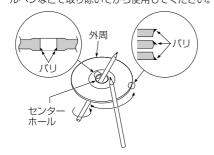
本機の機能をディスプレイに表示するデモンストレーションモードがオンになっています。本機を使用する前に、必ず「デモンストレーション設定」（p51）でデモンストレーションをオフにして使用してください。

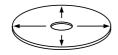
メディアの取り扱い

CDの取り扱いについて

CDの汚れや、ゴミ、キズ、反りなどが、音飛びなどの誤動作や、音質劣化の原因になることがあります。
取り扱いは記録面に触れないようにしてください。
（レーベルが印刷されていない面が記録面です）

新しいCDを使うときは

新しいCDを使うときは、CDのセンターホールや外周部に"バリ"がないことを確認してください。
"バリ"がついたまま使用すると、CDが挿入できなかったり音飛びの原因になります。"バリ"があるときは、ボールペンなどで取り除いてから使用してください。

CDのお手入れ

CDが汚れたときは、市販のクリーニングクロスや柔らかい木綿の布などで、中心から外側に向かって軽くふき取ってください。
従来のレコードクリーナー、静電防止剤や、シンナーやベンジンなどの薬品は絶対に使用しないでください。

使用できないCD

特殊な形状のCDは使用できません。必ず円形のものをご使用ください。円形以外のCDを使用すると故障の原因になります。

●

記録面（レーベル面の反対側）が着色してあるものや汚れているCDは引き込まない、取り出せないなどの誤動作をすることがあります。

●

マークの付いていないCDは使用しないでください。
前記マークの入っていないディスクは、プレイが正しくできない場合があります。

●

ファイナライズ処理を行っていないCD-RおよびCD-RWは再生できません。（ファイナライズ処理については、お使いのCD-R/CD-RWライティングソフトやCD-RやCD-RWレコーダーの説明書をご覧ください）
このほかにもCD-RやCD-RWで記録されたCDは、記録状態により再生できない場合があります。

●

レーベル面にシールの貼ってあるCDを使用すると、CDが変形したり、シールがはがれることがあります。
本機の故障の原因となることもあるため、レーベル面にシールの貼ってあるCDは使用しないでください。

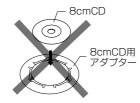
CDの取り出しかた

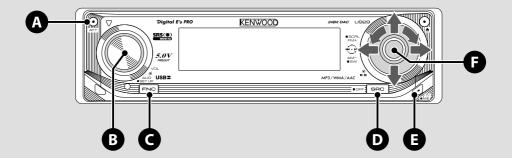
本機からCDを取り出すときは水平方向に引き出してください。
下側に強く押しながら引き出すとCDの記録面に傷を付ける原因となります。

CD用アクセサリーについて

音質向上やディスク保護を目的としたディスク用アクセサリー（スタビライザー、保護シート、レンズクリーナーなど）は故障の原因となりますので使用しないでください。

●

8cmCDはアダプターは使用せず、そのまま挿入してください。8cmCDアダプターを使用するとディスクが取り出せなくなるなど、故障の原因になります。
また、接続するCDチェンジャーで8cmCDを使用する場合は別売の8cmCD用マガジンをご使用ください。

Basic Operation

共通操作

D 電源をオン/オフします

SRC ボタンⒹを押すと、電源がオンになります。
1秒以上押し続けると、電源がオフになります。

B 音量を調整します

A 音量を素早く下げます

ATT ボタンⒶを押すと、音量が小さくなります（アッテネーター）。
もう一度押すと、元の音量に戻ります。

- アッテネーターの動作中には ATT インジケーターが点滅します。

E 交通情報を聴きます

TI ■AME ボタンⒺを押すと、交通情報を受信します。
もう一度押すと、元のソースに戻ります。

- コントロールノブⒻを左右に動かすと、交通情報の周波数（522kHz/1620kHz/1629kHz）を切り替えることができます。
- 交通情報の受信中にボリュームノブⒷで音量を調整すると、交通情報受信時の音量が記憶されます。

デモンストレーションの解除について
- ご使用になる前にデモモードを解除する必要があります。詳しくは「デモンストレーション設定」（p51）をご覧ください。

時計・日付の調整について
- 時計や日付の調整はメニュー設定で行います。詳しくは「時刻合わせ」（p50）、「日付合わせ」（p50）をご覧ください。

注 意

安全のために、周囲の音が聞こえる音量でお聴きください。

D F

ソースを切り替えます

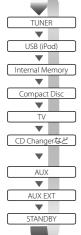
ソースセレクトモード1

SRC ボタンⒹを押してダイレクト選択モードにします。

コントロールノブⒻを回してソースアイコンを選択します。

コントロールノブⒻを押して決定します。

ソースセレクトモード2

SRC ボタンⒹを押すたびに、プレイ可能なソースが次の順に切り替わります。

ソース	説明
TUNER	FM/AM放送を受信します。（p15、p18）
USB (iPod)	USBデバイス内のオーディオファイルをプレイします。（p16、p20）
Internal Memory	内蔵メモリー内のオーディオファイルをプレイします。（p16、p20）
Compact Disc	CDまたはオーディオファイルをプレイします。（p16、p20）
TV	LX-BUS接続したTV（別売品）の音声を出力します。（p54）
CD Changerなど	CDチェンジャーなど外部プレーヤー（別売品）のソースをプレイします。（p16、p20）
AUX	内部AUXに入力されたサウンドを出力します。
AUX EXT	外部AUX（別売品）に入力されたサウンドを出力します。
STANDBY	何もプレイされませんが、時計などは表示されます。

- ソースセレクトモード1、2の切り替えは「メニュー設定」（p46）の“SRC Select”項目で設定します。
- CDが挿入されていないときや、CDチェンジャーなど別売品が接続されていないときは、それのソースには切り替わりません。
- iPodをKCA-iP200（別売品）で接続していると、“USB”表示は認識後に“iPod”になります。iPodについては「Help? Audio file」（p60)の「iPodについて」をご覧ください。（本書で断りの無い限り「iPod」と呼んでいるのはKCA-iP200で接続されたiPodを指します）
- 外部プレーヤーを選択時は次のように表示されます。
  - “CD Changer”：CDチェンジャー
  - “MD Changer”：MDチェンジャー
  - “EXT MEDIA”：KCA-iP501（別売品）で接続したiPod
  - “HDD EXT”：HDX-710などの音楽ファイル（KSF）
- KCA-iP501（別売品）で接続したiPodのプレイのしかたはKCA-iP501の取扱説明書をご覧ください。
- HDX-710などの音楽ファイル（KSF）のプレイのしかたは「Music disc & Audio file Listening」(p20)をご覧ください。
- LX-BUS接続したTVでは、USB（iPod）や内蔵メモリーソースはCDソースと認識され、表示や音声案内でもCDソースとして扱われます。
- 内蔵AUXソースに切り替えるには、「メニュー設定」（p46）の“Built in AUX”項目を“ON”に設定している必要があります。
- 外部AUX（“AUX EXT”）を使用するためには、別売品のKCA-S220A、CA-C1AXまたはCA-C2AXが必要です。
- “AUX”表示やKCA-S220Aを使用した“AUX EXT”表示は「AUXネーム選択」（p29）で替えることができます。

B C

音質の調整について

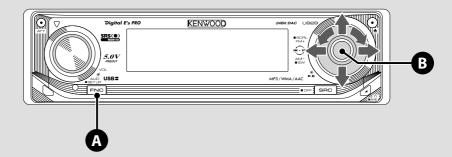
本機は音量バランスを調整するオーディオコントロールと音質を調整するDSPコントロールがあります。
また、はじめに使用環境をサウンドマネジメントシステムで設定することで、最適なサウンドを創り出します。

ボリュームノブⒷを押す
音量バランスを調整します。➡「オーディオコントロール」（p30）

ボリュームノブⒷを1秒以上押す
音量オフセットやデュアルゾーンを設定します。➡「オーディオセットアップ」（p36）

FNC ボタンⒸを押し、ファンクションコントロール（p14）でDSPを選択する

“DSP”＞“SND CONT”＞“EQ”: イコライザーカーブを設定します。➡「dBイコライザー」（p30）
イコライザーカーブを調整します。➡「dBイコライザープロの調整」（p31）
“DSP”＞“SND CONT”＞“WOW HD”: SRS WOW HDを調整します。➡「WOW HDコントロール」（p32）
“DSP”＞“SND CONT”＞“POSITION”: 聴く位置を設定します。➡「プリセットポジションの設定」（p32）
“DSP”＞“SND CONT”＞“LOUD”: ラウドネスを設定します。➡「ラウドネス」（p33）
“DSP”＞“SND CONT”＞“Supreme”: サプリームを設定します。➡「サプリーム」（p34）
“DSP”＞“S.M.S”: 使用環境を設定します。➡「サウンドマネジメントシステム」（p37）
“DSP”＞“PRESET”: DSPの設定を登録または呼び出します。➡「ユーザーメモリーの登録」（p34）、「ユーザーメモリーの呼び出し」（p35）

ファンクションコントロールの操作

A B

ファンクションコントロールモード

FNC ボタン❹を押してファンクションコントロールモードにします。

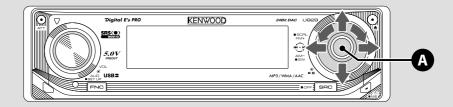
コントロールノブ❺とFNC ボタン❹で設定する項目を選択します。

動作	操作方法
項目を移動する	コントロールノブ❺を回す。
項目を選択する	コントロールノブ❺を押す。
前の項目に戻る	FNC ボタン❹を押す。

ファンクションアイテムには、次の項目があります。

表示	アイコン	操作方法
“Menu”	“MENU”	環境の設定ができます。「メニュー設定」（p46）をご覧ください。
“DSP”	“DSP”	音質や音場を設定できます。「Sound Effect」（p30）をご覧ください。
“Display Select”	“DISPLAY”	表示の設定ができます。「Display Control」（p40）をご覧ください。
“Angle Adjust”	“ANGLE”	パネルの角度が設定できます。「操作パネル角度調節」（p45）をご覧ください。
“Preset Memory”	“P.MEMORY”	放送局をメモリーできます。「マニュアルメモリー」（p18）をご覧ください。
“File Scan”など	“SCAN”	CDやオーディオファイルなどのプレイ方法を設定できます。「プレイファンクション」（p20）をご覧ください。
“Return”	“ ”	前の項目に戻る

FNC ボタン❹を1秒以上押してファンクションコントロールモードを終了します。

ラジオを聴く

A バンドを切り替えます

コントロールノブⒶを上に動かすと、受信バンドが次のように切り替わります。

FMバンド1

FMバンド2

コントロールノブⒶを下に動かすと、受信バンドが次のように切り替わります。

AMバンド1

AMバンド2

- ステレオ受信中は ST インジケーターが点灯します。インジケーター表示は「ディスプレイタイプ設定」（p40）のステータス表示をご覧ください。
- その他、ラジオのいろいろなプレイ方法については、「Radio Listening」(p18)をご覧ください。

A 放送局を選択します

コントロールノブⒶを左右に動かすと、受信状態の良い放送局を自動的に受信します。

- チューニングモードによって、周波数を１ステップずつ変えたり、メモリーしている放送局を順に受信することができます。詳しくは「チューニングモード」（p19）をご覧ください。

A プリセット局を受信します

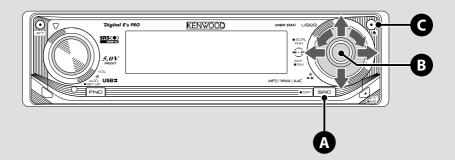
コントロールノブⒶを回してプリセット局選択表示にします。

コントロールノブⒶを回して呼び出したいプリセット局を選択して、コントロールノブⒶを押すとメモリーされている放送局を選局します。

途中で解除するときは FNC ボタンⒶを押します。

- プリセットチューニングは、あらかじめ放送局がメモリーされている必要があります。メモリー方法については、「オートメモリー」（p18）または「マニュアルメモリー」（p18）をご覧ください。

ミュージックディスクやオーディオファイルを聴く

A C

CDをプレイします

イジェクトボタン❸を押し操作パネルを開きます。
CD挿入口にCDを挿入すると、操作パネルが閉じます。
差し込んだCDがプレイされます。

CDを取り出します

イジェクトボタン❸を押します。操作パネルが開きCDが排出されます。

- CDは水平に差し込んでください。
- CDが入っているときには IN インジケーターが点灯します。インジケーター表示は「ディスプレイタイプ設定」（p40）のステータス表示をご覧ください。
- CDがすでに入っているときには、 SRC ボタン❹でCDソースに切り替えるとプレイされます。ソースの切り替え方法は「ソースを切り替えます」（p13）をご覧ください。
- 通常のCDのほかに、オーディオファイルが収録されたCD-R/CD-RWをプレイできます。
  プレイできるオーディオファイルの種類、フォーマット、書き込み方法などの詳細については、「Help? Audio file」（p60）をご覧ください。
- その他、CDやオーディオファイルのいろいろなプレイ方法については、「Music disc & Audio file Listening」（p20）をご覧ください。

注 意

操作パネルを開いたときにシフトレバーなどと干渉する場合は、安全に注意してシフトレバーを動かしてください。

- 開いている操作パネルには無理な力をかけないでください。

A

内蔵メモリー内のオーディオファイルをプレイします

[SRC] ボタンⒶを押して“Internal Memory”ソースに切り替えるとプレイが始まります。

- ソースの切り替え方法は「ソースを切り替えます」（p13）をご覧ください。
- 内蔵メモリーにオーディオファイルを取り込むには、音楽CDの録音とUSBデバイスから転送する方法があります。詳しい操作方法は「Recording & Downloading」（p22）をご覧ください。
- その他、オーディオファイルのいろいろなプレイ方法については、「Music disc & Audio file Listening」（p20）をご覧ください。

A C

USBデバイス内のオーディオファイルをプレイします

USBメモリーやiPodなどを接続すると、USBデバイスのプレイが始まります。

USBデバイスを取り外します

イジェクトボタンⒸを2秒以上押してリムーブモードにします。
“USB REMOVE”と表示されたら、USBデバイスを取り外します。

- USBデバイスがすでに接続されているときには、[SRC] ボタンⒶでUSB/iPodソースに切り替えるとプレイされます。ソースの切り替え方法は「ソースを切り替えます」（p13）をご覧ください。
- iPodを接続するためにはKCA-iP200（別売品）が必要です。iPodについては「Help?　Audio　file」（p60)の「iPodについて」をご覧ください。そのほかのUSBメモリーなどは、USBケーブルCA-U1EX（別売品）を使用して接続してください。
- USBデバイスを接続していないときに、USBソースにすると、"No Device"と表示されます。
- プレイをストップしたあとで、再びプレイするとストップした曲からプレイを再開します。USBデバイスを取り外した場合でも、USBデバイスの保存内容が変わっていなければ、ストップした曲からプレイを再開します。
- プレイできるオーディオファイルの種類などの詳細については、「Help? Audio file」（p60）をご覧ください。
- 使用できるUSBデバイスの種類や接続方法については、「Help? Audio file」（p60）をご覧ください。
- USBデバイスのコネクターは、奥まで確実に差し込んでください。
- その他、オーディオファイルのいろいろなプレイ方法については、「Music disc & Audio file Listening」（p20）をご覧ください。
- メモリーカードをマルチリーダーを使用して接続しているときは、プレイするメモリーカードの切り替えができます。詳しくは「ドライブセレクト」（p20）をご覧ください。

注 意

リムーブモードにしないでUSBデバイスを取り外すと、 USBデバイスのデータが破損する場合があります。

B

早送り/早戻しします

コントロールノブⒷを右に押し続けると、押している間、曲が早送りされます。また、コントロールノブⒷを左に押し続けると、押している間、早戻しされます。

- オーディオファイルをプレイしているときは、早送り/早戻し中に音は出ません。
- KSFをプレイ中は、早送り/早戻しできません。

プレイする曲を選びます

コントロールノブⒷを右に動かすと、次の曲がプレイされます。
コントロールノブⒷを左に動かすと、プレイ中の曲の先頭／前の曲がプレイされます。

B

プレイ/ポーズします

コントロールノブⒷを一度押すと、プレイを一時停止します。
もう一度押すと、プレイを再開します。

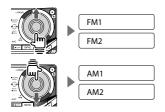
Radio Listening

FM/AM放送を受信します。また、各バンドごとに6局までの放送局をメモリーしておくこともできます。

● 基本的なFM/AM放送の聴きかたは「ラジオを聴く」（p15）をご覧ください。

オートメモリー

受信状態の良い放送局を自動的に選んでメモリーします。

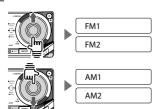
1 バンドを選びます

2 オートメモリーを開始します

周波数表示が変わり始めるまで押し続けます。

● 6局メモリーするか、周波数を1周すると自動的にオートメモリーは終了します。

マニュアルメモリー

受信中の放送局をメモリーします。

1 バンドを選びます

2 放送局を選びます

3 プリセットメモリーモードにします

4 メモリーする番号を選びます

5 メモリーする番号を決定します

6 メモリーを実行します

プリセットメモリーモードを中止するときは...

● オートメモリーではメモリーされない放送局をメモリーしたいときなどに便利です。

チューニングモード

コントロールノブを左右に動かして選局するときのチューニングモードを設定します。
チューニングモードには、次の3種類があります。

1 **メニューモードにします**

2 **チューニングモードの項目を選択します**

3 **チューニングモードを選びます**

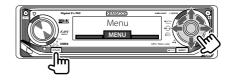
チューニングモードには、次の３種類があります。

表示	操作
“Auto1”	受信状態の良い放送局を自動的に選びます。（オート1）
“Auto2”	メモリーされている放送局を番号順に受信します。（オート2）
“Manual”	押すたびに、周波数が１ステップずつ変わります。（マニュアル）

4 **メニューモードを終了します**

モノラルモード（FM放送を受信中のみ）

FMステレオ放送の受信状態が良くないときにモノラルモードにすると、ノイズが軽減されて聴きやすくなる場合があります。

1 **メニューモードにします**

2 **モノラルモードの項目を選択します**

3 **モノラルモードをオン/オフします**

4 **メニューモードを終了します**

Radio Listening

Music disc & Audio file Listening

CDやオーディオファイル（CD-ROM/R/RW、USBデバイス、内蔵メモリー、Music Editorメディア、およびiPod）、KSF（HDX-710など）を本機や別売品のディスクチェンジャーでいろいろな機能を使ってプレイできます。

- CDとオーディオファイルの基本的な聴きかたは「ミュージックディスクやオーディオファイルを聴く」（p16）をご覧ください。

ディスク/フォルダサーチ
（オーディオファイル、ディスクチェンジャーのみ）

プレイするディスクまたはフォルダを選択します。

上に動かすと次のディスク/フォルダが選択され、下に動かすと手前のディスク/フォルダが選択されます。

- ディスクサーチは、別売品のディスクチェンジャーのプレイ中に使えます。
- フォルダサーチは、オーディオファイルおよびKSFのプレイ中に使えます。
- iPodに"RESUMING"と表示されているときは、フォルダサーチできません。

ドライブセレクト

マルチカードリーダーにセットされているメモリーカードを選択します。

1 プレイを一時停止します

2 ドライブを選択します

上に動かすと次のドライブが選択され、下に動かすと手前のドライブが選択されます。

3 ドライブを決定します

- 最大４スロットのマルチカードリーダーに対応しています。ただし、複合型のカードリーダー（マウスにカードリーダーが付いている機器など）では使用できない場合があります。
- マルチカードリーダーを接続しているときに、メモリーカードを挿入しても認識されません。リムーブモードにしてカードリーダーを外してから、メモリーカードを挿入してカードリーダーを再度接続してください。リムーブモードについては「USBデバイスを取り外します」（p17）を参照してください。

プレイファンクション

リピートプレイやスキャンプレイなどの設定をします。

1 プレイ機能を設定する

オーディオファイル

表示／アイコン	機能
"File Scan" "SCAN"	現在のフォルダやジャンルなどのオーディオファイルを次々にプレイします。
"Folder RDM" "RANDOM"	現在のフォルダやジャンルなどのオーディオファイルの中からランダムにプレイします。
"All Random" "ALL RDM"	現在のディスク、USBデバイスや内蔵メモリーのオーディオファイルの中からランダムにプレイします。
"File Repeat" "FILE REP"	現在のオーディオファイルを繰り返しプレイします。
"Folder Repeat" "FOLDER REP"	現在のフォルダやジャンルなどの中のオーディオファイルを繰り返しプレイします。

CD、外部プレーヤー

表示／アイコン	機能
"(Track) Scan" "SCAN"	現在のCD/MDの曲の最初の10秒間を次々にプレイします。
"Disc Random" "RANDOM"	現在のCD/MDの中の曲からランダムにプレイします。
"Magazine RDM" "M.RDM"	ディスクチェンジャーの中の曲からランダムにプレイします。
"(Track) Repeat" "TRACK REP"	現在のCD/MDの曲を繰り返しプレイします。
"Disc Repeat" "DISC REP"	現在のCD/MDを繰り返しプレイします。

"Repeat Select" "REPEAT"	KSFプレイ中は、押すたびにリピートプレイが次のように替わります。 "File Repeat ON" → "Folder Repeat ON" → "Repeat Select"（オフ）

2 **選択した項目を設定する**

押すたびにオンとオフに切り替わります。

3 **プレイファンクションモードを終了する**

- 選択しているソースで使用できる機能のアイコンのみが表示されます。
- "File Scan"でプレイされるところ
  - オーディオファイル：最初の10秒間
  - Music Editorメディア：最初の10秒間またはサビの30秒間

  サビでスキャン中は、コントロールノブを左右に動かすと曲を替えることができます。
  スキャン方法はミュージックエディターの設定により変わります。詳しくはミュージックエディターのヘルプを参照してください。
- ランダムプレイ中は、コントロールノブを右に動かすと、次の曲をランダムに選択します。
  KSFでは、コントロールノブを上下に動かすと、次の曲をランダムに選択します。

ファイルセレクト（オーディオファイルのみ）

プレイ中のドライブやメディアから聴きたい曲を探します。

1 **ファイルセレクトモードにします**

2 **曲を探します**

iPodの操作方法

動作	操作
項目を移動する	コントロールノブを回す。
項目を選択する	コントロールノブを押す。
前の項目に戻る	コントロールノブを上側に押す。
最初の項目に戻る	コントロールノブを上側に1秒以上押す。

iPod以外の操作方法

動作	操作
項目を移動する	コントロールノブを回す。
項目を選択する	コントロールノブを右側に押す。
前の項目に戻る	コントロールノブを左側に押す。
最初の項目に戻る	コントロールノブを左側に1秒以上押す。

表示している項目の横に"◄"や"►"がある場合は、この項目の前や後ろにも項目があることを示しています。

ファイルセレクトモードを終了するときは…

- iPodを接続したときの操作方法を、「iPodの操作方法」から「iPod以外の操作方法」に変えることもできます。「メニュー設定」（p46）の"iPod　Mode"項目を"OFF"に設定してください。

タイトル/テキストスクロール

タイトル/テキストをスクロールさせます。

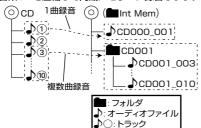
- スクロールできるのは次のタイトル/テキストです。
  - ディスクタイトル/トラックタイトル
  - 曲タイトル/アルバム名/アーティスト名/フォルダ名/ファイル名
- 「メニュー設定」（p46）で"Display"項目を"OFF"に設定しているとスクロール途中でも表示が消える場合があります。

Recording & Downloading

内蔵メモリーにオーディオファイルを取り込むことができます。取り込んだオーディオファイルはCDと同じようにプレイできます。オーディオファイルの取り込みには、音楽CDの録音とUSBデバイスから転送する方法があります。

● 取り込んだオーディオファイルの聴きかたは「ミュージックディスクやオーディオファイルを聴く」（p16）および「Music disc & Audio file Listening」（p20）をご覧ください。

音楽CDを録音する（内蔵CDのみ）

音楽CDを圧縮して内蔵メモリーに録音します。

● 録音を始める前に「内蔵メモリーについて」（p60）のご注意をご覧ください。
● 録音可能時間を設定することができます。操作方法は「録音可能時間の設定」（p23）をご覧ください。
● 音楽CDの録音は内蔵CDからのみ可能です。録音スピードは等倍速です。

1 録音したい音楽CDをプレイします

「CDをプレイします」（p16）をご覧ください。

2 インポートモードにします

"IMPORT CD"＞"IMPORT"と選択します。

3 録音モードを選択します

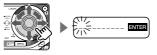
4 録音する曲を選択します

録音モード	操作
1曲録音	1曲選択します。
複数曲録音	全曲または指定曲から最終曲までを選択します。

5 曲を決定します

6 録音するファイルまたはフォルダに名前を付けます

"SKIP"を選択すると手順8の録音を開始します。

7 名前を入力します

名前は16文字まで登録できます。

動作	操作
カーソルを移動する	コントロールノブを左側、右側に押す。
文字を選択する	コントロールノブを回す、または上側、下側に押す。
文字種を選択する*	コントロールノブを押す
名前を決定する	カーソルを"ENTER"に移動して、コントロールノブを押す。

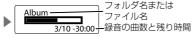
* 文字種は次の順に切り替わります。

表示	文字種
"A-Z"	英大文字
"a-z"	英小文字
"カナ"	カタカナ

“かな”	ひらがな
“1・*”	数字・記号

- 漢字入力方法については、「漢字の入力」（p28）をご覧ください。

8 録音を開始します

手順6または7で決定すると録音を開始します。

録音が完了すると“Completed”と表示します。

9 “EXIT”を選択します

“NEXT”を選択すると手順3になります。

10 インポートモードを終了します

録音を中止するときは…

1 中止するか確認します

手順7までに押すとインポートモードが終了します。

2 “YES”を選択します

3 録音を中止します

- 曲を選択すると録音可能時間が曲の録音時間の分だけ減少します。録音可能時間は目安です。録音完了後、録音可能時間が増減することがあります。

- 録音を途中で中止したときや録音の途中で空き容量がなくなった場合は、録音済みの曲は残ります。
- 複数曲録音時にフォルダ名を指定した場合は、ファイル名が“フォルダ名_トラックナンバー”になります。
- 同じファイル名またはフォルダ名が存在する場合は、“Name_001”のように番号が追加されます。
- ファイル名またはフォルダ名を設定しないときは。
  - 1曲録音: “CD000_001.wma”から順番に999までファイル名が設定されます。
  - 複数曲録音: “CD001”から順番に999までフォルダ名が設定されます。
  - ファイル名またはフォルダ名は、途中の番号が削除されていても、最後に割り当てられた次の番号になります。番号が999になった場合は、001に戻ります。
  - ファイル名またはフォルダ名を設定することをおすすめします。

録音可能時間の設定
（内蔵CDに音楽CDが入っているとき）

音楽CDを録音できる録音可能時間を設定します。

1 モードセッティングにします

“IMPORT CD”＞“MODE SET”と選択します。

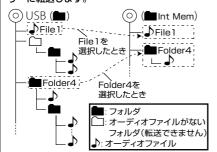
2 録音可能時間を設定します

表示	設定	最大録音時間*
“Standard”	標準録音	約8時間
“Long Play”		約12時間
“Super Long Play”	長時間録音	約16時間

3 モードセッティングを終了します

- * 最大録音時間は他のファイルがないときです。実際の録音時間は曲により増減することがあります。
- 長時間録音の設定は、標準録音より音質が低下します。

USBデバイスから転送する

USBデバイス内のオーディオファイルを内蔵メモリーに転送します。

● 転送を始める前に「内蔵メモリーについて」（p60）のご注意をご覧ください。

1 転送したいUSBデバイスをプレイします。

「USBデバイス内のオーディオファイルをプレイします」（p17）をご覧ください。

2 コピーモードにします

3 転送するファイルまたはフォルダを1つ選択します

動作	操作
項目を移動する	コントロールノブを回す。
項目を選択する	コントロールノブを右側に押す。
前の項目に戻る	コントロールノブを左側に押す。
最初の項目に戻る	コントロールノブを左側に1秒以上押す。
ファイル／フォルダを決定する	コントロールノブを押す。

4 “OK”を選択します

5 転送を開始します

コピーが完了すると“Completed”と表示します。

6 “EXIT”を選択します

“NEXT”を選択すると手順3になります。

7 コピーモードを終了します

転送を中止するときは…

1 中止するか確認します

手順3までに押すとコピーモードが終了します。

2 “YES”を選択します

3 転送を中止します

● フォルダを選択した場合は、フォルダ内のファイルを転送します。下位階層のフォルダは転送されません。
● 同じファイル名またはフォルダ名が存在する場合は、メッセージを表示します。“OK”を選択した場合は“Name_001”のように番号が追加されます。
● 転送を途中で中止したときや転送の途中で空き容量がなくなった場合は、転送済みのファイルは残ります。

- 選択したファイル/フォルダが空き容量に入らない場合は“OVER"と表示します。転送するファイルを減らすか、内蔵メモリー内の不要なファイルを消去してください。
- 表示されるメモリー容量は目安です。転送完了後、メモリー容量が増減することがあります。

メモリー内のファイルを削除する

内蔵メモリー内のオーディオファイルを削除します。

- 削除を始める前に「内蔵メモリーについて」（p60）のご注意をご覧ください。
- 削除したファイルを元に戻すことはできません。
- 全曲を削除したいときは、フォーマットしてください。操作方法は「内蔵メモリーのフォーマット」（p53）をご覧ください。

1 内蔵メモリーソースにします

▶ Internal Memory

ソースの切り替え方法は「ソースを切り替えます」（p13）をご覧ください。

2 削除モードにします

3 削除するファイルまたはフォルダを1つ選択します

動作	操作
項目を移動する	コントロールノブを回す。
項目を選択する	コントロールノブを右側に押す。
前の項目に戻る	コントロールノブを左側に押す。
最初の項目に戻る	コントロールノブを左側に1秒以上押す。
ファイル／フォルダを決定する	コントロールノブを押す。

4 “OK”を選択します

5 削除を開始します

削除が完了すると“Completed”と表示します。

6 “EXIT”を選択します

▶ EXIT

“NEXT”を選択すると手順3になります。

7 削除モードを終了します

削除を中止するときは…

1 中止するか確認します

手順3までに押すと削除モードが終了します。

2 “YES”を選択します

▶ YES

3 削除を中止します

Name Set

FM/AM放送局、本機内蔵のCDプレーヤーまたは別売品のCDチェンジャーにセットされているCDに名前を付けて表示させることができます。また、AUX入力に付ける名前を選択することができます。

DNPS（ディスクネームプリセット）/ SNPS（ステーションネームプリセット）

CD、FM/AM放送局に名前を付けます。

1 名前を付けるソースをプレイします

- MDやオーディオファイルのメディアにDNPSを行うことはできません。
- マガジンランダムプレイ中はDNPSは行えません。マガジンランダムプレイ以外を選択しておいてください。
- 交通情報モード中に受信している放送局にも同様の操作で名前を付けることができます。

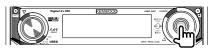
2 メニューモードにします

3 ネームプリセットの項目を表示させます

4 DNPS/SNPSを開始します

ネームセットの画面に切り替わるまで押し続けます。

5 文字を入力する位置にカーソルを移動します

6 文字の種類を選びます

入力できる文字が次の順に切り替わります。

表示	文字種
“A-Z”	英大文字
“a-z”	英小文字
“カナ”	カタカナ
“かな”	ひらがな
“1・＊”	数字・記号

- 漢字入力方法については、「漢字の入力」（p28）をご覧ください。

7 文字を選びます

名前は8文字まで登録できます。

8 手順5～7を繰り返して、すべての文字を入力します

9 DNPS/SNPSを終了します

メニューモードが終了します。

- 10秒以上何も操作しないと、その時点で名前が確定されます。
- CDは、CDトラック数（曲数）と総録音時間で識別されます。このため、これらが同じCDの場合には識別できません。
- 登録した名前を変更するには、変更したいCDや放送局の名前を表示させたあと、同様の操作で変更できます。
- SNPSで登録できる局数は、FM放送局とAM放送局の合計で30局です。
- DNPSは内蔵のCDプレーヤーと別売品のCDチェンジャーを合わせて50枚まで登録できます。
- バッテリーから本機を外すとDNPS/SNPSは消去されます。

Name Set

漢字の入力

ディスクネーム/ステーションネームおよびCDの録音ファイル名に漢字を入力して表示させることができます。

1 DNPS/SNPSまたはCDの録音を開始します

「DNPS（ディスクネームプリセット）/SNPS（ステーションネームプリセット）」（p26）の手順１～6をご覧ください。
「音楽CDを録音する」（p22）の手順１～7をご覧ください。

2 漢字入力モードにします

“漢字”インジケーターが点灯するまで押し続けます。

3 漢字の読みを選びます

4 入力する漢字を選びます

カーソルが読みの位置から漢字の位置に移動します。

漢字列を変えるには…

カーソルが漢字の位置にあるときに操作すると、漢字列が変わります。

5 漢字を入力します

カーソルがある位置の漢字が入力され、漢字入力モードが終了します。

6 手順2～5を繰り返して、すべての漢字を入力します

漢字入力を中止するときは…

AUXネーム選択

ソースをAUXに切り替えたときに表示される名前（AUXネーム）を設定します。

1 **AUXソースに切り替えます**

▶ AUX / AUX EXT

ソースの切り替え方法は「ソースを切り替えます」（p13）をご覧ください。

2 **メニューモードにします**

3 **ネームプリセットの項目を表示させます**

▶ Name Set

4 **AUXネーム選択を開始します**

▶ ****

現在のAUXネームが表示されるまで押し続けます。

5 **名前を選びます**

操作するたびに、次の順で名前が表示されます。

表示
“AUX” / “AUX EXT”
“DVD”
“PORTABLE”
“GAME”
“VIDEO”
“TV”

6 **AUXネーム選択を終了します**

メニューモードが終了します。

- 10秒以上何も操作しないと、AUXネーム選択は自動的に終了します。
- AUXネームを付けられるのは、内蔵AUXまたは別売品のKCA-S220Aを使用した外部AUXのみです。

Sound Effect

イコライザーや音場などの音響効果を設定します。

- Sound Effectの各機能を使用する前に、「Sound Setup」（p36）で使用環境を設定してください。車に合わせた最適なサウンドになります。
- 各機能の設定により調整できない項目があります。詳しくは「Help? Troubleshooting」（p62）をご覧ください。
- Sound Effectの各機能はスタンバイ中は操作できません。

オーディオコントロール

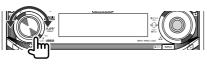
音量バランスなどを調整します。

1 **オーディオコントロールを開始します**

2 **設定する項目を選びます**

押すたびに、次の順に切り替わります。

表示	設定内容
“REAR VOLUME”	リアスピーカーの音量を調整します。
“SUBWOOFER LEVEL”	サブウーファーの音量を調整します。
“BALANCE”	左右の音量バランスを調整します。
“FADER”	前後の音量バランスを調整します。
通常の表示	オーディオコントロールを終了します。

3 **各項目を設定します**

各項目の設定範囲は次のとおりです。

項目	設定範囲
“REAR VOLUME”	0～35
“SUBWOOFER LEVEL”	−15～+15
“BALANCE”	左15～右15
“FADER”	後15～前15

- コントロールノブまたは FNC ボタンを押すと、すぐに通常の表示に戻せます。

サブウーファー出力コントロール

サブウーファー出力のオン/オフを設定します。

SUBWOOFER ON
(サブウーファーオン)

SUBWOOFER OFF
(サブウーファーオフ)

“SUBWOOFER　ON”または“SUBWOOFER OFF”と表示されるまで押し続けます。

dBイコライザー

ジャンル別に設定されたイコライザーカーブを呼び出します。

1 **プリセットイコライザーモードにします**

“DSP”>“SND　CONT”>“EQ”>“PRESET”と選択します。

2 **イコライザーカーブを選びます**

操作するたびに次のように切り替わります。

表示	設定内容
“User”	ユーザープリセット
“Natural”	ナチュラル
“Rock”	ロック
“Pops”	ポップス
“Easy”	イージー
“Top40”	トップ40
“Jazz”	ジャズ

3 **プリセットイコライザーモードを終了します**

- “User”は「dBイコライザープロの調整」（p31）で設定した値を呼び出します。
- 本機のリセットボタンを押すと「ユーザーメモリーの登録」(34ページ)の“Memory1”に登録した設定値が“User”に設定されます。

dBイコライザープロの調整

音楽に合わせて独自のイコライザーカーブに調整できます。フロントとリアを別々に調整できます。

1 **フロントまたはリアのマニュアルイコライザーモードにします**

“DSP”＞“SND CONT”＞“EQ”と選択し、“FRONT”または“REAR”を選択します。

2 **設定したい周波数バンドを選びます**

3 **周波数バンドを決定します**

4 **調整する項目を選びます**

5 **選んだ項目を調整します**

表示		設定範囲
“FØ”（中心周波数）	“BAND1”	60/ 80/ 100/ 120/ 160/ 200 (Hz)
	“BAND2”	250/ 315/ 400/ 500/ 630/ 800/ 1k (Hz)
	“BAND3”	1.25/ 1.6/ 2/ 2.5/ 3.15/ 4 (kHz)
	“BAND4”	5/ 6.3/ 8/ 10/ 12.5/ 16 (kHz)
“Q”（クオリティーファクター）		0.25/0.50/1.00/2.00
“Gain”（レベル）		-9/-7/-5/-3/-2/-1/0/+1/+2/+3/+5/+7/+9
“Effect”(BAND1のみ)（低音中心周波数伸張）		OFF/ ON

6 **周波数バンドの選択に戻ります**

7 **マニュアルイコライザーモードを終了します**

- 各項目の詳細は「Help? Term」（p64）をご覧ください。

WOW HDコントロール

SRS WOW HDの設定を呼び出します。

1 WOW HDコントロールモードにします

"DSP" > "SND CONT" > "WOW HD"と選択します。

2 設定する項目を選択します

3 項目を調整します

アイコン		設定範囲
"PRESET"		Middle/ High/ User/ Through/ Low
"FRONT"	> "FOCUS"	OFF/ 1～9
	> "TruBass"	OFF/ 1～9
	> "Space"	OFF/ 1～9
	> "Center"	−4～Neutral～4
	> "Defini"	OFF/ 1～9
"REAR"	> "TruBass"	OFF/ 1～9
	> "Defini"	OFF/ 1～9

4 WOW HDコントロールモードを終了します

- "PRESET"の設定は、"FOCUS"、"TruBass"、"Space"、"Center"および"Defini"の値を一括して設定します。
- 各項目の詳細は「Help? Term」（p64）をご覧ください。

プリセットポジションの設定

聴く位置に合わせて、プリセットポジションの設定をします。音像定位が補正されます。

1 プリセットポジション設定モードにします

"DSP" > "SND CONT" > "POSITION" > "PRESET"と選択します。

2 プリセットポジションを選択します

操作するたびに次のように切り替わります。

表示	設定内容
"All"	全席
"Front-Right"	前方右側
"Front-Left"	前方左側
"Front"	前方両側

3 プリセットポジション設定モードを終了します

- **ポジション機能とタイムアライメント機能について**
  はじめに「タイムアライメントの設定」（p38）で使用環境を設定します。
  プリセットポジションで実際に聴く位置を選択することで、音像の定位を補正します。
  「マニュアルポジションの調整」(p33）はプリセットポジションで設定した値をスピーカーごとに微調整します。マニュアルポジションはプリセットポジションの設定ごとにメモリーします。

マニュアルポジションの調整

プリセットポジションの設定をスピーカーごとに微調整します。

1 微調整するプリセットポジションを設定します

「プリセットポジションの設定」（p32）をご覧ください。

2 マニュアルポジション設定モードにします

“DSP”＞“SND CONT”＞“POSITION”＞“MANUAL”と選択します。

3 調整するスピーカーを選びます

MANUAL POSITION

	フロント左側	FRONT	フロント右側	
	リア左側	REAR	リア右側	
L	サブウーファー左側	SW	サブウーファー右側	R

4 選んだスピーカーを調整します

調整範囲
0～100 (cm)（5cmステップ）

5 マニュアルポジション設定モードを終了します

● サブウーファー左側とサブウーファー右側を1つのサブウーファーで使用する場合は、左右を同じ値に設定してください。

● プリセットポジションの初期設定値

設定	フロント		リア		サブウーファー	
	左側	右側	左側	右側	左側	右側
全席	0	0	0	0	0	0
前方右側	35	0	35	0	0	0
前方左側	0	35	0	35	0	0
前方両側	0	0	100	100	0	0

（cm）

ラウドネス

高域音と低域音を強調してメリハリのある音質にします。

1 ラウドネス設定モードにします

“DSP”＞“SND CONT”＞“LOUD”と選択します。

2 ラウドネスを設定します

（オン）
（オフ）

3 ラウドネス設定モードを終了します

サプリーム（オーディオファイルをプレイ時）

オーディオファイルの低いビットレートで欠落してしまった高音域を、独自のアルゴリズムにより推定・補完する技術です。

1 サプリーム設定モードにします

“DSP”＞“SND CONT”＞“Supreme”と選択します。

2 サプリームを設定します

ON	（オン）
OFF	（オフ）

3 サプリーム設定モードを終了します

- iPodにはサプリームを設定できません。

ユーザーメモリーの登録

DSPの設定をメモリーします。

1 メモリーするDSPの設定をします。

メモリーできる設定は下記です。
「サウンドマネジメントシステム」（p37）
「dBイコライザープロの調整」（p31）
「プリセットポジションの設定」（p32）
「マニュアルポジションの調整」（p33）

2 プリセットメモリーモードにします

“DSP”＞“PRESET”＞“MEMORY”と選択します。

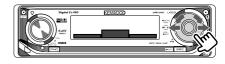
3 メモリーする番号を選びます

アイコン	設定内容
“1”	メモリー1に登録します。リセットボタンを押しても消去されません。リセットボタンを押したとき、この設定が初期設定値になります。
“2”	メモリー2に登録します。リセットボタンを押しても消去されません。
“3”	メモリー3に登録します。
：	
“6”	メモリー6に登録します。

4 メモリーするか確認します

Memory?
NO YES

5 “YES”を選択します

YES

6 **DSP設定をメモリーします**

Memory Completed

7 **プリセットメモリーモードを終了します**

● ユーザーメモリーはソース別にはメモリーできません。

ユーザーメモリーの呼び出し

ユーザーメモリーでメモリーした設定を呼び出します。

1 **呼び出したいソースにします**

2 **プリセット呼び出しモードにします**

“DSP”>“PRESET”>“RECALL”と選択します。

3 **呼び出す番号を選びます**

4 **呼び出すか確認します**

Recall?
NO YES

5 **“YES”を選択します**

YES

6 **DSPの設定を呼び出します**

Recall Completed

7 **プリセット呼び出しモードを終了します**

● DSPの設定値がメモリーしていた値に置き換わります。

Sound Effect

Sound Setup

オーディオセットアップやサウンドマネジメントシステムなど使用環境を設定します。

- 各機能の設定により調整できない項目があります。詳しくは「Help? Troubleshooting」（p62）をご覧ください。
- Sound Setupの各機能はスタンバイ中は操作できません。

オーディオセットアップ

音量オフセットやデュアルゾーン機能などを設定します。

1 オーディオセットアップを開始します

2 設定する項目を選びます

押すたびに、次の順に切り替わります。

表示	設定内容
“VOLUME OFFSET”	各ソースごとの、音量の差を調整します。
“NAV VOLUME”	ナビ音声ガイド時の音量を設定します。
“2 ZONE”	デュアルゾーン機能のオン/オフを設定します。

3 各項目を設定します

各項目の設定範囲は次のとおりです。

表示	設定範囲
“VOLUME OFFSET”	−8 ～ ±0 (AUX：−8 ～ +8)
“NAV VOLUME”	0 ～ 29
“2 ZONE”	OFF/ON

4 オーディオセットアップを終了します

- “VOLUME OFFSET”でソースごとに音量オフセットを設定しておくと、ソースを切り替えてもほぼ同じ音量で聴くことができます。
- デュアルゾーン機能を使うと、本機でプレイするソースとAUXに入力された音声を前後のスピーカーから別々に出力できます。詳しくは「Help? Term」（p64）をご覧ください。

デュアルゾーン設定

デュアルゾーン機能がオンに設定しているときの内蔵AUX入力音声（サブソース）の出力先（フロント/リア）を設定します。

1 メニューモードにします

2 デュアルゾーン設定を表示します

3 出力先を選択します

(リア出力)

(フロント出力)

4 メニューモードを終了します

- 上記の操作の前に、デュアルゾーン機能をオンにしておいてください。デュアルゾーン機能の設定については「オーディオセットアップ」（p36）をご覧ください。
- メインソースは [SRC] ボタンで切り替えます。
- デュアルゾーン時には、本設定にかかわらず、フロントスピーカーの音量はボリュームノブで調整します。また、リアスピーカーの音量は「オーディオコントロール」（p30）の“REAR VOLUME”項目で調整します。
- デュアルゾーン時は、サウンドエフェクトの各種効果がオフになります。

サウンドマネジメントシステム

使用環境を設定することで最適なサウンドを創り出せるシステムが、サウンドマネージメントシステムです。

はじめに “CABIN”（キャビンの設定）と “SPEAKER”（スピーカーの設定）を設定するだけで、「タイムアライメント」、「クロスオーバー」を自動的に設定します。その後、各設定で微調整します。

1 サウンドマネジメントモードにします

“DSP”＞“S.M.S”と選択します。

2 設定する項目を選択します

アイコン	設定内容
“CABIN”	「キャビンの設定」（p37）
“SPEAKER”	「スピーカーの設定」（p38）
“DTA”	「タイムアライメントの設定」（p38）
“X'OVER”	「クロスオーバーの設定」（p39）

3 サウンドマネジメントモードを終了します

キャビンの設定

キャビン（車種）を選択することで簡単にタイムアライメントを設定して、スピーカー間の距離差を補正できます。

1 キャビン選択モードにします

“DSP”＞“S.M.S”＞“CABIN”と選択します。

2 キャビンを設定します

操作するたびに次のように切り替わります。

表示	設定内容
“OFF”	スピーカーの位置補正を行いません。
“Compact”	コンパクト車
“Sedan”	セダン車
“Wagon”	ワゴン車
“Minivan”	ミニバン車
“SUV”	エスユーブイ車
“One Box”	1ボックス車

3 キャビン選択モードを終了します

Sound Setup

スピーカーの設定

各スピーカーのサイズや位置を選ぶことで、簡単にクロスオーバーなどを設定できます。

1 スピーカー設定モードにします

"DSP" > "S.M.S" > "SPEAKER"と選択します。

2 設定する項目を選択します

アイコン		設定内容
"FRONT"	> "LOCATION"	フロントスピーカーの位置
	> "SIZE"	フロントスピーカーの大きさ
	> "TWEETER"	ツィーターの有無
"REAR"	> "LOCATION"	リアスピーカーの位置
	> "SIZE"	リアスピーカーの大きさ
"SUB-W"	> "SIZE"	サブウーファーの大きさ

3 スピーカーを設定します

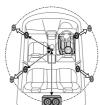
各項目の設定範囲は次のとおりです。

設定項目	設定範囲
フロントスピーカーの位置	Door/ On Dash/ Under Dash
フロントスピーカーの大きさ	16cm/ 17cm/ 18cm/ 4x6/ 5x7/ 6x8/ 6x9/ 7x10/ O.E.M./ 10cm/ 13cm
ツィーターの有無	None/ Use
リアスピーカーの位置	･Door/ Rear Deck ･2nd Seat/ 3rd Seat （キャビン設定が"Minivan"および"One Box"の時）
リアスピーカーの大きさ	16cm/ 17cm/ 18cm/ 4x6/ 5x7/ 6x8/ 6x9/ 7x10/ None/ O.E.M./ 10cm/ 13cm
サブウーファーの大きさ	25cm/ 30cm/ 38cm Over/ None/ 16cm/ 20cm

4 スピーカー設定モードを終了します

- "None"は、スピーカーがない場合の設定です。
- "O.E.M."は、車両標準で付いている再生帯域の狭いスピーカー用の設定です。

タイムアライメントの設定

一番遠いスピーカーの距離に合わせて近いスピーカーの距離差を設定して、スピーカー間の距離差をなくします。

1 前後と高さをフロントシートに座った人の耳の位置で、左右を車室内の中央に基準点を設定します。
2 基準点からスピーカーまでの距離を測ります。
3 一番遠いスピーカーの距離に合わせて距離の差を計算します。

1 タイムアライメント設定モードにします

"DSP" > "S.M.S" > "DTA"と選択します。

2 設定する項目を選択します

アイコン	設定内容
"FRONT"	フロントスピーカーのタイムアライメント
"REAR"	リアスピーカーのタイムアライメント
"SUB-W"	サブウーファーのタイムアライメント

3 **計算した距離の差を設定します**

各項目の設定範囲は次のとおりです。

表示	設定範囲
“FRONT” / “REAR” / “SUBWOOFER”	0～290 (cm)（5cmステップ）

4 **タイムアライメント設定モードを終了します**

- タイムアライメント機能は、ポジション機能と合わせて使用します。「プリセットポジションの設定」（p32）もご覧ください。

クロスオーバーの設定

各スピーカーのクロスオーバーの調整ができます。

1 **クロスオーバー設定モードにします**

“DSP”＞“S.M.S”＞“X'OVER”と選択します。

2 **設定するスピーカーを選択します**

3 **設定する項目を選択します**

アイコン	表示	設定内容
“FRONT”	“fc”	ハイパスフィルターカットオフ周波数
	“Slope”	ハイパスフィルタースロープ
“REAR”	“fc”	ハイパスフィルターカットオフ周波数
	“Slope”	ハイパスフィルタースロープ
“SUB-W”	“fc”	ローパスフィルターカットオフ周波数
	“Slope”	ローパスフィルタースロープ
	“Phase”	ローパスフィルターの位相

4 **クロスオーバーを設定します**

各項目の設定範囲は次のとおりです。

表示	設定範囲
“fc”(ハイパスフィルターカットオフ周波数)	Through/ 30～100/ 120/ 150/ 180/ 220/ 250 (Hz)
“fc”(ローパスフィルターカットオフ周波数)	30～100/ 120/ 150/ 180/ 220/ 250 (Hz)/ Through
“Slope”（スロープ）	-12/ -18/ -24 (dB/Oct)
“Phase”（位相）	Normal/ Reverse

5 **クロスオーバー設定モードを終了します**

- 各項目の詳細は「Help? Term」（p64）をご覧ください。

Display Control

ディスプレイに表示する情報を設定します。

- ディスプレイの表示設定が文字表示や壁紙表示のときに表示部が反転（ネガ／ポジ）する機能があります。表示を反転することにより表示部の明るさを長時間継続できます。「メニュー設定」（p46）の“Display N/P”項目で設定します。

ディスプレイタイプ設定

ディスプレイの表示タイプを設定します。

1 ディスプレイタイプ切り替えモードにします

“DISPLAY”＞“TYPE”と選択します。

2 ディスプレイタイプを切り替えます

次の順に切り替わります。

ディスプレイタイプA
“TYPE SELECT [A]”

▼

ステータス表示
テキスト表示
② テキスト表示（p41）
② テキスト表示（p41）

ディスプレイタイプB
“TYPE SELECT [B]”

▼

ステータス表示
アイコン表示（p43） / テキスト表示
② テキスト表示（p41）
② テキスト表示（p41）

ディスプレイタイプC
“TYPE SELECT [C]”

▼

ステータス表示
⑥ テキスト表示（p41）
⑥ テキスト表示（p41）
テキスト表示

ディスプレイタイプD
“TYPE SELECT [D]”

3 ディスプレイタイプ切り替えモードを終了します

- ディスプレイタイプDでは、上段または下段に“Blank”を設定すると上段と下段の中間にテキスト表示します。

ディスプレイモード設定
（ディスプレイタイプB、Cのみ）

ディスプレイタイプBおよびCの表示モードを設定します。

1 ディスプレイモード切り替えモードにします

“DISPLAY”＞“MODE”と選択します。

2 ディスプレイモードを切り替えます

次の順に切り替わります。

ディスプレイタイプB　ディスプレイタイプC

3 ディスプレイモード切り替えモードを終了します

- モード3で表示文字が4行を超える場合は、コントロールノブを上側に2秒以上押し続けると次の表示に変わります。

テキスト表示設定

ディスプレイのテキスト表示を切り替えます。

1 テキスト切り替えモードにします

“DISPLAY”＞“TEXT”と選択します。

2 設定する段を選択します（ディスプレイタイプB(モード1,2)、C(モード1,2)およびDのみ）

押すたびに、設定できる段が変わります。
設定可能な段には“►”が表示されます。

3 表示を切り替えます

表示できる項目は「テキスト表示」（p41）をご覧ください。

4 テキスト切り替えモードを終了します

- 各段に同じ情報を表示することはできません。“Blank”は各段同時に設定できます。

テキスト表示

スタンバイ中

表示	情報	表示位置
Source Name	スタンバイ	① ③
Clock	時計表示	①②③④ ⑥
Date	日付表示	①②③④ ⑥
Blank	何も表示しません	①②③④ ⑥

FM/AM受信中、交通情報受信中

表示	情報	表示位置
SNPS	ステーションネーム	①②③
Frequency	バンド＋周波数表示	① ③
Clock	時計表示	① ⑥
Speana/Clock	スペクトラムアナライザー／時計表示	②③④
Date	日付表示	①②③④ ⑥
Blank	何も表示しません	①②③④ ⑥

CD/ディスクチェンジャープレイ中

表示	情報	表示位置
Disc Title	ディスクタイトル	①②③④⑤⑥
Track Title	トラックタイトル	①②③④⑤⑥
P-Time	トラック番号＋プレイ時間	① ③
DNPS	ディスクネーム	①②③④ ⑥
Clock	時計表示	① ⑥
Speana/Clock	スペクトラムアナライザー／時計表示	②③④
Date	日付表示	①②③④ ⑥
Blank	何も表示しません	①②③④ ⑥

オーディオファイルプレイ中

表示	情報	表示位置
Title/Artist	曲タイトル／アーティスト名	①②③④⑤⑥
Album/Artist	アルバム名／アーティスト名	①②③④⑤⑥
Folder Name	フォルダ名	①②③④⑤⑥
File Name	ファイル名	①②③④⑤⑥
P-Time	ファイル番号＋プレイ時間	① ③
Clock	時計表示	① ⑥
Speana/Clock	スペクトラムアナライザー／時計表示	②③④
Date	日付表示	①②③④ ⑥
Blank	何も表示しません	①②③④ ⑥

AUX/AUX EXT中

表示	情報	表示位置
Source Name	AUXネーム	① ③
Clock	時計表示	① ⑥
Speana/Clock	スペクトラムアナライザー／時計表示	②③④
Date	日付表示	①②③④ ⑥
Blank	何も表示しません	①②③④ ⑥

- 選択した情報がない場合は、代替の情報が表示されます。
- ファイル番号は３桁まで表示されます。1000を超えた場合は、下３桁を表示します。
- WAVファイルでは、曲タイトル、アルバム名、およびアーティスト名を表示できません。
- iPodのプレイ中にフォルダ名表示を選択すると、現在選択中のブラウズ項目に沿った名称が表示されます。

グラフィック表示設定
（ディスプレイタイプAのみ）

ディスプレイタイプAのグラフィック表示を切り替えます。

1 ディスプレイタイプをAにします

「ディスプレイタイプ設定」（p40）をご覧ください。

2 グラフィック切り替えモードにします

“DISPLAY”>“GRAPHIC”と選択します。

3 グラフィック表示を切り替えます

次の順に切り替わります。

4 グラフィック切り替えモードを終了します

- “ダウンロード壁紙”は画像が収録されている場合に表示されます。収録の方法は「画像のダウンロード」（p52）を参照してください。

ステータス表示設定（ディスプレイタイプAのみ）

ディスプレイタイプAに表示される、各種機能のオンオフ状態（ステータス表示）の有無を設定します。

1 ディスプレイタイプをAにします

「ディスプレイタイプ設定」（p40）をご覧ください。

2 ステータス表示設定にします

“DISPLAY”>“STATUS”と選択します。

3 ステータス表示を選択します

4 ステータス表示設定を終了します

テキストカラー設定
（ディスプレイタイプA、B、Cのみ）

テキストのカラーを切り替えます。

1 ディスプレイタイプをA、BまたはCにします

「ディスプレイタイプ設定」（p40）をご覧ください。

2 テキストカラーモードにします

“DISPLAY”>“COLOR”と選択します。

3 文字色か影色を選択します（ディスプレイタイプAのみ）

表示	設定内容
FILL-IN	文字色を設定します。
OUTLINE	影色を設定します。

設定する段を選択します（ディスプレイタイプB(モード1,2)およびC(モード1,2)のみ）

押すたびに、設定できる段が変わります。
設定可能な段には“►”が表示されます。

4 テキストカラーを切り替えます

動かすたびに、色が切り替わります。

動作	操作
基本12色	コントロールノブを右側または左側に押す。
詳細115色	コントロールノブを回す。

5 テキストカラーモードを終了します

アイコンの設定（ディスプレイタイプCのみ）

ディスプレイタイプCのとき表示されるアイコンを選択します。

1 ディスプレイタイプをCにします

「ディスプレイタイプ設定」（p40）をご覧ください。

2 サイドアイコン表示設定モードにします

“DISPLAY”>“SIDE”と選択します。

3 アイコンを変更します

動かすたびに、次の順で切り替わります。

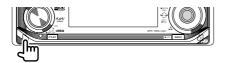
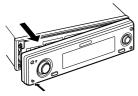
表示	操作
Source	選択しているソースを表示
Text	テキスト表示の種類を表示
Photograph	アルバムアートまたはアートワークを表示

4 サイドアイコン表示設定モードを終了します

- “Photograph”はMusic Editorメディアと iPodのとき選択できます。
- “Photograph”を選択しMusic Editorメディアのアルバムアートおよび iPodのアートワークがないときは、ソースアイコンを表示します。
- アルバムアート／アートワークのダウンロードは最大で30秒程度の時間がかかります。ダウンロード中は“Downloading”と表示します。

操作パネルの取り外し

操作パネルを取り外します。

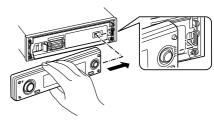
1 操作パネルのロックを外します

2 操作パネルを取り外します

パネルのロックが外れたらパネルの左側を引きます。

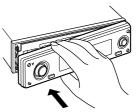
- 電源がオンのときにパネルを取り外すと、電源がオフになります。
- パネルは精密な部品のため、振動や落下などの衝撃により損傷する場合があります。パネルを取り外した後は、大切に保管してください。
- 取り外したパネルは、以下のような場所で保管しないでください。
  - 直射日光のあたる場所
  - 湿度が高い場所
  - ほこりのかかる場所
- 本機はDSI（セキュリティインジケーター）機能を採用しています。「メニュー設定」（p46）の“DSI”項目を“ON”にしておくとパネルを取り外したときに、盗難防止用警告ランプが点滅し、盗難防止の手助けになります。

盗難防止用警告ランプ

パネルの取り付け

操作パネルを取り付けます。

1 操作パネルを本体に合わせます

本体の右側シャフト部にパネルを合わせて押します。

2 操作パネルを取り付けます

パネル左側を本体に合わせてロックします。
パネルが取り付き、本機が使用可能となります。

操作パネル角度調節

操作パネルの角度を調整します。

1 アングルコントロールモードにします

2 角度を設定します

操作パネルが4段階にスライドします。

3 アングルコントロールモードを終了します

Menu

各種の機能を設定します。

メニュー設定

各ソースごとに、各種の機能を設定します。

1 ソースを切り替えます

ソースの切り替え方法は「ソースを切り替えます」（p13）をご覧ください。

2 メニューモードにします

3 設定する項目を選択します

表示される項目は、ソースによって異なります。

4 各項目を設定します

- ページ数が表記されている項目の設定方法は、それぞれのページを参照してください。

表示	設定	設定概要	ソース
Security Set/ Security Clear	p48参照	セキュリティコードの設定と解除をします。	SB
SRC Select	1*/2	ソースの選択方法を設定します。	SB
iPod Mode	ON*/OFF	ファイルセレクトの操作方法をiPodような操作にします。	iPod
Beep	ON*/OFF	操作音の有無を設定します。	SB
Clock Adjust	p50参照	時刻を設定します。	SB
Date Adjust	p50参照	日付を設定します。	SB
DSI	ON*/OFF	盗難防止用警告ランプのオン/オフ設定をします。	SB
Display	ON*/OFF	操作しないときは、ディスプレイを消します。	
Dimmer	ON*/OFF	周囲の明るさに合わせて、ディスプレイの輝度が調整されます。	SB
Contrast	1～4*	ディスプレイの明るさを設定します。	SB
Display N/P	Auto*/ POSI	ディスプレイの反転、ポジ固定を設定します。	SB
AMP	ON*/OFF	内蔵アンプのオン/オフ設定をします。	SB
Zone 2	p36参照	デュアルゾーン機能の内蔵AUX入力音声の出力先を設定します。	2ZONE
Seek Mode	Auto1*/ Auto2/ Manual	放送局の選択方法を設定します。	Tuner
MONO	OFF*/ON	モノラル音声で受信します。	FM
Name Set	p26参照	FM/AM放送局やCD、AUXソースに名前を付けます。	

表示	設定	設定概要	ソース
漢字優先	ON*/OFF	テキスト表示時に漢字を優先して表示するか設定します。	SB
Scroll	Auto*/ Manual	テキスト表示を自動的にスクロールするか設定します。	
NAV Guide	OFF*/ ATT/INT	接続されているナビの音声ガイド時の設定をします。	SB
Built in AUX	OFF*/ON	ソース選択時に内蔵AUXを表示するか設定します。	SB
CD Read	1*/2	CDの読み取りモードを設定します。	SB
DISP Data DL	p52参照	画像データをダウンロードします。	SB
F/W Version	—	ファームウェアバージョンを表示します。	SB
INT. MEM. Format	p53参照	内蔵メモリーをフォーマットします。	Memory
DEMO Mode	p51参照	デモンストレーションの設定をします。	SB

* お買い上げ時の設定状態を示します。

SB :スタンバイ中のみ設定できます。

Tuner :Tunerソース中のみ設定できます。

FM :FMを受信中のみ設定できます。

USB :USBソース中のみ設定できます。

Memory :内蔵メモリーソース中のみ設定できます。

iPod :iPodソース中のみ設定できます。(iPodを接続したときのUSBソース)

2ZONE :「オーディオセットアップ」(p36)の“2 ZONE”項目を“ON”に設定して、スタンバイ以外のソース時に設定できます。

5 メニューモードを終了します

- 各項目の詳細は「Help? Term」(p64)をご覧ください。
- セキュリティコードが設定されているときは、“Security Set”のかわりに“Security Clear”(セキュリティコード消去)が表示されます。
- “Built in AUX” はiPodを接続中は設定できません。
- iPodを接続中は、“NAV Guide”項目を“INT”には設定できません。
- AUXソースを使用しないときは、“Built in AUX”は“OFF”のままに設定しておいてください。
- “NAV Guide”項目を“INT”に設定して、ナビ音声ガイドが割り込んだときに、ナビゲーションシステムでKSF(別売品のHDX-710などの音楽ソース)を再生していると、ナビゲーションによってはKSFの音声がナビ音声ガイドと一緒に聞こえる場合があります。
- 設定できるメニュー項目が3項目以下のとき、同じメニュー項目が表示される場合があります。

セキュリティコードの設定

暗証番号を設定して、盗難を抑制します。

- 設定したセキュリティコードの変更・消去には、セキュリティコードが必要です。セキュリティコードは必ずメモしておくことをお勧めします。
- セキュリティコード機能は“DEMO Mode”項目が“OFF”のときに設定できます。

1 スタンバイ中にメニューモードにします

2 セキュリティコードセットを表示します

3 セキュリティコードセットを開始します

“Enter”と表示されるまで押し続けます。

4 セキュリティコードを入力します

入力する桁を選択するには

入力する数字を選択するには

5 決定します

“Re-Enter”と表示されるまで押し続けます。

6 もう一度入力します

手順4と同じ方法で、同じセキュリティコードを入力します。

7 決定します

“Approved”と表示されるまで押し続けます。

8 セキュリティコードセットを終了します

- 手順6で入力したセキュリティコードが手順4で入力したセキュリティコードと異なる場合は、手順4からやりなおすことになります。
- セキュリティコードが設定されると、リセットボタンを押したときやバッテリーの接続を切った場合にセキュリティコードの入力が必要となります。詳しくは、「セキュリティコードの入力」（p49）をご覧ください。

セキュリティコードの入力

セキュリティコードが設定されている場合、リセットボタンを押した後や本機をバッテリーから外した後で初めて使うときには、電源をオンにするためにセキュリティコードを入力する必要があります。

1 セキュリティコードを入力します

入力する桁を選択するには

入力する数字を選択するには

2 決定します

▶ Approved

"Approved"と表示されるまで押し続けます。

- 入力したセキュリティコードがまちがっていると電源がオフになります。このようなときは、 SRC ボタンを押して電源をオンにしてから再度セキュリティコードを入力してください。
- 本機はセキュリティコード機能の他にDSI（セキュリティインジケーター）機能を採用しています。「メニュー設定」（p46）の"DSI"項目を"ON"に設定しておくと、操作パネルを取り外したときにLEDが点滅し、盗難防止警告ランプの代用として使用できます。

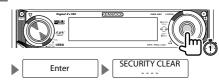
セキュリティコードのクリア

セキュリティコードの設定を解除します。

1 スタンバイ中にメニューモードにします

2 セキュリティコードクリアを表示します

3 セキュリティコードクリアを開始します

▶ Enter ▶ SECURITY CLEAR - - - -

"Enter"と表示されるまで押し続けます。

4 セキュリティコードを入力します

入力する桁を選択するには

入力する数字を選択するには

「セキュリティコードの設定」(p48)で設定したセキュリティコードを入力します。

5 決定します

▶ Clear

"Clear"と表示されるまで押し続けます。

6 セキュリティコードクリアを終了します

- 入力したセキュリティコードが間違っていると"Error"と表示されます。再度手順4からの操作を行って正しいコードを入力してください。

Menu

時刻合わせ

本機の時計を合わせます。

1 スタンバイ中にメニューモードにします

STANDBY ▶

2 時刻合わせの項目を選択します

3 時刻合わせを開始します

▶ 12:00 AM

時計表示になるまで押し続けます。

4 調整する項目を選択します

設定できる項目(時、分)を選択します。

5 時刻を調整します

6 手順4〜5を繰り返して時刻を合わせます

7 時刻合わせを終了します

- “分”を調整したときには、時計合わせ終了時に00秒からスタートします。
- 時計は12時間制で表示します。

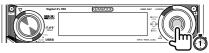
日付合わせ

本機の日付を合わせます。

1 スタンバイ中にメニューモードにします

STANDBY ▶

2 日付合わせを表示します

3 日付合わせを開始します

▶ 2001年01月01日(月)

日付表示になるまで押し続けます。

4 **合わせる項目を選択します**

設定できる項目(年、月、日)を選択します。

▶ 2001年01月01日(月)

5 **日付を合わせます**

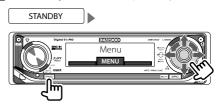
6 **手順4～5を繰り返して日付を合わせます**

7 **日付合わせを終了します**

デモンストレーション設定

デモンストレーションモードを設定します。

1 **スタンバイ中にメニューモードにします**

STANDBY ▶

2 **デモンストレーションモードを表示します**

▶ DEMO Mode

3 **デモンストレーション機能を設定します**

▶ DEMO Mode : ON
(デモンストレーションオン)
DEMO Mode : OFF
(デモンストレーションオフ)

2秒以上押すたびに、デモンストレーション機能がオン/オフします。

4 **メニューモードを終了します**

Menu

画像のダウンロード

壁紙を本機にダウンロードします。ダウンロードした画像はディスプレイに表示できます。

- 画像のダウンロード中は、本機を操作したりエンジンの始動や停止などはしないでください。正しく画像が読み込めない場合がありなす。

1 **画像の入ったUSBデバイスまたはCD-R/RWを準備します**

ダウンロードする画像やダウンロード用のUSBデバイスまたはCD-R/RWの作成方法は、下記URLをご覧ください。
URL：http://www.kenwood.net-disp.com

2 **ダウンロード用のUSBデバイスを本機に接続します、またはCD-R/RWを挿入します**

CD-R/RWでダウンロードする場合はUSBデバイスを取り外した状態にしてください。

3 **スタンバイソースにします**

▶ STANDBY

ソースの切り替え方法は「ソースを切り替えます」（p13）をご覧ください。

4 **メニューモードにします**

5 **ディスプレイデータダウンロードを表示します**

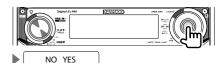
6 **ディスプレイデータダウンロードモードにします**

▶ File Check!!

“File Check!!”と表示されるまで押し続けます。

7 **ダウンロードする画像を選択します**

8 **ダウンロードを開始するか確認します**

▶ NO YES

9 **“YES”を選択します**

10 **画像のダウンロードを開始します**

ダウンロードが終了すると“Finished”と表示されます。

ダウンロードを中止するには...

11 **ディスプレイデータダウンロードモードを終了します**

- ダウンロード可能なファイルが無い場合は、“No Display File”と表示されます。この場合は FNC ボタンを押してディスプレイデータダウンロードモードを解除してください。
- 画像のダウンロードには、最大で20分程度かかります。
- ダウンロードできる画像のファイル数は、壁紙が1ファイルです。新しい画像をダウンロードすると、以前にダウンロードした画像は消去されます。
- 1ファイル内に収録できる画像は、4096色の壁紙では10枚です。
- ダウンロードした画像の表示方法は「ディスプレイタイプ設定」（p40）と「グラフィック表示設定」（p42）をご覧ください。

内蔵メモリーのフォーマット

内蔵メモリーに保存されているオーディオファイルをすべて削除する場合にフォーマットします。

- フォーマットした内蔵メモリの内容は元に戻せません。間違いのないように操作してください。

1 **内蔵メモリーソースにします**

▶ Internal Memory

ソースの切り替え方法は「ソースを切り替えます」（p13）をご覧ください。

2 **メニューモードにします**

3 **内蔵メモリーのフォーマットを表示します**

4 **フォーマットモードにします**

▶ Format?
NO YES

“Format?”と表示されるまで押し続けます。

5 **“YES”を選択します**

6 **フォーマットを開始します**

▶ Format...

フォーマットが終了すると“Completed”と表示されます。

7 **フォーマットモードを終了します**

Menu

TV Control

別売品のLX-BUS対応のナビゲーション、HDX-700やHDX-710などが接続されているときに、本機からTVのコントロールをすることができます。

チャンネル選択

受信するTVチャンネルを選択します。

動作は接続している別売品のTVモニターの設定によって異なります。
詳しくは、TVモニターの取扱説明書を参照してください。

バンド/ビデオ切り替え

TV放送バンドとビデオ入力を切り替えます。

TVバンドとビデオ入力が切り替わります。

マニュアルメモリー

1 バンドを選びます

2 放送局を選びます

3 プリセットメモリーモードにします

4 メモリーする番号を選びます

5 メモリーする番号を決定します

6 メモリーを実行します

プリセットメモリーモードを中止するときは...

プリセットチューニング

1 バンドを選びます

2 プリセットチューニング選択モードにします

3 呼び出すプリセットナンバーを選びます

4 放送局を呼び出します

音声多重切り替え

音声多重放送のメイン音声とサブ音声を切り替えます。

動かすたびに、メイン音声とサブ音声に切り替わります。

Remote Controller

本機を付属のリモコンで操作することができます。

- リモコンは、ブレーキ操作などによって動かない場所においてください。ペダルの下などに落ちると、運転操作に支障をきたして危険です。
- 電池を炎の中に入れたり、高温による場所に置かないでください。破裂することがあります。
- 電池を充電、ショート、分解、加熱したり、火の中に入れたりしないでください。液漏れを起こす危険があります。液漏れを起こし、目に入ったり、皮膚や衣類に付着したときは、すぐに水で洗い流し、すぐに医師に相談してください。また、電池は子供の手の届かないところに置き、万一飲み込んだときは、すぐに医師に相談してください。

共通操作

ソース切り替え

プレイするソースを切り替えます。

音量調整

音量を調整します。

アッテネーター

ワンタッチで音量を小さくします。もう一度押すと、元の音量に戻ります。

操作パネル角度調整

操作パネルの角度を調整します。

オーディオコントロール

音質などを調整します。

1 調整する項目を選びます。

2 調整します。

- 調整できる項目については「オーディオコントロール」（p30）をご覧ください。

デュアルゾーン

デュアルゾーン機能をオン/オフします。

リア音量調整

デュアルゾーン機能オン時のリアの音量を調整します。

ラジオ

バンド切り替え

受信するバンドを切り替えます。

選局

受信する放送局を切り替えます。

ダイレクトチューニング

このボタンに続けて、受信する放送局をテンキーで指定します。

例：76.1MHz（FM）の場合（3桁）

⑦⑥①

例：522kHz（AM）の場合（4桁）

⓪⑤②②

テンキー

- メモリーされている放送局の番号を押すと、プリセットチューニングできます。（①〜⑥）
- ダイレクトチューニングに続けて受信するAM/FM放送局の周波数の数字を指定すると、ダイレクトチューニングできます。

CD/オーディオファイル/KSF

ディスクサーチ/フォルダサーチ
（ディスクサーチ：ディスクチェンジャーのみ）

プレイするディスク/フォルダを選択します。

また、テンキーに続けて押すと、指定した番号のディスクをダイレクトサーチします。

トラックサーチ/ファイルサーチ

プレイする曲/ファイルを選択します。

また、テンキーに続けて押すと、指定した番号のトラック/ファイルをダイレクトサーチします。

プレイ/ポーズ

プレイを一時停止します。

もう一度押すと、プレイを再開します。

テンキー

- テンキーに続いてディスクサーチまたはトラックサーチキーを押すと、ダイレクトサーチできます。
- オーディオファイルのプレイ中にテンキーに続いてファイルサーチキーを押すとプレイ中のフォルダ内のファイルをダイレクトサーチできます。
- iPod、Music Editorメディア、およびKSFのプレイ中は、ダイレクトサーチできません。
- ランダムプレイがオンのときは、ダイレクトサーチできません。
- オーディオファイルのダイレクトサーチは999までできます。

ネームセット

カーソル

カーソルを文字を入力する位置に移動します。

文字種切り替え

入力する文字の種類（英大文字/英小文字/カタカナ/ひらがな/数字・記号）を切り替えます。

テンキー

文字を入力します。
例：「コ」を入力する場合（カタカナ）
　2（9回押す）
例：「h」を入力する場合（英小文字）
　4（2回押す）

文字選択

文字を順に切り替えます。

終了（SNPS/DNPSのみ）

登録が完了します。

- SNPS/DNPSを開始するには、本体での操作が必要です。詳しい操作方法は「Name Set」(p26) をご覧ください。
- 音楽CDの録音時のネームセットアップでも名前を入力することができます。詳しい操作方法は「音楽CDを録音する」(p22) をご覧ください。

TV

バンド／ビデオ切り替え

受信するTVバンドの放送局とビデオ入力を切り替えます。

音声多重切り替え

メイン音声／サブ音声を切り替えます。

チャンネル選択

受信するチャンネルを選択します。

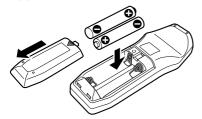
ダイレクトチューニング

このボタンに続けて、受信する放送局をテンキーで指定します。
例：3chの場合（2桁）

テンキー

- メモリーされている放送局の番号を選択します。
  （1〜6）
- ダイレクトチューニングキーに続けて、受信する放送局のチャンネルを指定します。

電池の入れかた

付属の電池（単三形2本）を＋/－の向きを正しく合わせて入れてください。

● 操作できる距離が短くなったり、なかなか動作しない場合は、乾電池が消耗していることが考えられます。
このような場合は、2個とも新しい乾電池と交換してください。新しい乾電池と古い乾電池を混ぜて使用すると、液漏れなどによる故障の原因になります。

オーディオファイル

以下のオーディオファイルがプレイできます。

プレイできるオーディオファイル
AAC-LC (.m4a), MP3 (.mp3), WMA (.wma), WAV (.wav)

プレイできるディスクメディア
CD-R, CD-RW, CD-ROM

プレイできるディスクフォーマット
ISO 9660 Level 1/2, Joliet, Romeo, Long file name

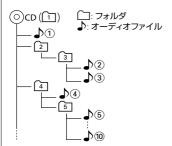
プレイできるUSBデバイス
USBマスストレージクラス、KCA-iP200で接続されたiPod

プレイできるUSBデバイスファイルフォーマット
FAT16, FAT32

上記の規格に準拠したオーディオファイルであっても、メディアやデバイスの種類やコンディションにより正常にプレイできない場合があります。

- USBデバイスやiPodを接続して本機の電源をオンにすると、接続している機器の充電ができます。
- USBハブを介してUSBデバイスを認識させることはできません。
- USBデバイスの詳細な対応機器については、www.kenwood.com/usb/をご覧ください。

ファイルセレクト時の表示について
「ファイルセレクト」（p21）で表示される文字数は13文字までです。
例えば、ファイル名を“アーティスト名__曲名”で作成している場合、ファイルの選択がしづらくなりますので、ファイル名を短く作成してください。

オーディオファイルのプレイする順番
下記のようなフォルダ・ファイル階層のメディアでは①から⑩の順にプレイされます。

オーディオファイルに関するオンラインマニュアルを、**www.kenwood.com/audiofile/**で公開しています。オンラインマニュアルには、本書に記載されていない詳しい情報や注意事項が掲載されています。本書とあわせて必ずお読みください。

ミュージックエディター

本機にはMusic Editor PCアプリケーションソフトウェアのCD-ROMが付属しています。
Music Editorで作成したCDやUSBデバイスを再生できます。

- アプリケーションソフトのインストール方法は、別冊 Music Editor インストール説明書をご覧ください。
- Music Editorの取り扱いについてはCD-ROMに収録されている説明書およびアプリケーションヘルプを参照してください。
- Music Editor の機能や使用方法などについては、ケンウッド カスタマーサポートセンターまでお問い合わせください。
- Music Editorに関する最新の情報は、下記URLをご覧ください。
  URL：http://www.kenwood.co.jp/faq/

内蔵メモリーについて

本機には512MBのメモリーを内蔵しています。
内蔵メモリーにオーディオファイルを取り込んで、いつでも再生できるようになります。

音楽CDからの録音
内蔵CDから1倍速で録音します。操作方法は「音楽CDを録音する」（p22）をご覧ください。

USBデバイスからの転送
前記の「オーディオファイル」で再生できるオーディオファイルのみを転送します。操作方法は「USBデバイスから転送する」（p24）をご覧ください。

最大録音時間（他のファイルがないとき）

録音可能時間の設定	最大録音時間
“Standard”	約8時間
“Long Play”	約12時間
“Super Long Play”	約16時間

最大収録時間／曲数
約16時間／約240曲
（64kbpsのWMA形式で1曲約4分の場合）

ご注意（共通）

- 本機の故障、誤動作または不具合により録音できなかった場合の損失や音楽、音声データの破損については保証いたしません。
- 録音、転送または削除している時に、エンジンスタートすると、オーディオファイルが消失する場合があります。
  録音および転送は、エンジンをかけた状態で操作してください。
- 録音中、転送中または消去中は、リセットボタンを押したり、バッテリーを外さないでください。内蔵メモリー内のオーディオファイルが消失する場合があります。
- 内蔵メモリー内のオーディオファイルを、他のメディアに転送することはできません。
- 録音中、転送中または消去中は下記の操作のみ行えます。
  - ボリューム、アッテネーター
  - 電源を切る

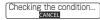
録音時のご注意

- 走行中は振動により、音飛びすることがあります。音飛びした音声はそのまま録音されます。
- 一部のCDで正常に録音および再生できない場合があります。
- 音楽CDではなくオーディオファイルを記録したCDからは録音できません。オーディオファイルはUSBデバイスから転送してください。
- 録音したファイルにタグ（曲情報）は付いていません。
- 録音する音にはDSPの音響効果はかかりません。プレイ時はDSPの音響効果をかけることができます。

転送時のご注意

- DRM付のオーディオファイルは転送できますが、プレイできません。
- iPodからはファイルを転送することはできません。
- デジタルオーディオプレーヤーによっては、ファイルを転送できない場合があります。
- Music Editorメディアからファイルを転送した場合、転送したオーディオファイルは、通常のオーディオファイルのプレイとなります。Music Editorメディアの機能を使用した選曲はできません。

録音や転送が中断したあとは

録音中や転送中にACCをオフした場合、次にACCをオンにしたとき、同じ曲から録音または転送を継続するか確認画面が表示されます。（リジューム機能）

エンジンをかけてから“YES”を選択します。

- “CANCEL”または“NO”を選択してコントロールノブを押すとリジュームを中止します。

録音または転送が再開します。

- 車やバッテリーの状況によりリジュームが機能しない場合があります。リジュームが機能しないとオーディオファイルが消失する場合があります。
  録音および転送は、エンジンをかけた状態で操作してください。

iPodについて

iPodを接続するには次の2種類があります。

- KCA-iP200で接続する
  ソース選択の“USB”表示は認識後に“iPod”になり、本機からコントロールが可能になります。
  本書で断りの無い限り「iPod」と呼んでいるのはKCA-iP200で接続されたiPodを指します。
- KCA-iP501で接続する
  ソース選択で“EXT MEDIA”を選び、本機からコントロールが可能になります。プレイのしかたなど詳しくは、KCA-iP501の取扱説明書をご覧ください。

KCA-iP200について

- KCA-iP200に接続可能なiPodはiPod nanoとiPod with videoです。（詳しくは最新のカタログをご覧ください。）
- iPodとの接続については「iPodの接続」（p74）をご覧ください。
- iPodに付属のケーブルで本機に接続しているときは、iPodは通常のUSBデバイス（USBマスストレージクラス）として認識されます。
- iPodを接続して本機の電源をオンにすると、接続している機器の充電ができます。
- iPodを接続してプレイすると、最初はiPodで接続していた曲から始まります。この状態のときは“RESUMING”と表示されます。タイトルなどを切り替えると、ブラウズ項目が“PLAYLIST”などに切り替わり、曲のタイトルなどが表示されます。
- iPodを接続している間は、iPodに“KENWOOD”または“✔”と表示され、iPodの操作はできません。

Help?

共通

? チューナーの感度が悪い

✔ 自動車のアンテナが伸びていない。
☛ アンテナを十分に伸ばしてください。

✔ アンテナコントロール電源が接続されていない。
☛ 「接続」（p72）を参照して正しく接続し直してください。

✔ アンテナ入力がきちんと接続されていない。
☛ アンテナ入力を確実に接続してください。

? 接続したTVユニットでUSBまたは内蔵メモリーソースに切り替えても、USBおよび内蔵メモリーソースの表示・音声案内をしない

✔ TVユニットなどでは、USBまたは内蔵メモリーソースはCDソースと認識されるため、CDソースの表示・音声案内がされている。
☛ CD、USBおよび内蔵メモリーソースで切り替えたときは、表示は変わらず音声案内もされません。

? ディスプレイがポジ表示とネガ表示とに繰り返し切り替わる

✔ 「メニュー設定」の“Display　N/P”項目が“Auto”になっている。
☛ 「メニュー設定」(46ページ)の“Display N/P”項目を“POSI”に設定してください。“Display N/P”の機能の説明は「Help? Term」(64ページ）をご覧ください。

USBデバイス

? USBデバイスを認識しない

✔ USBコネクターが抜けている。
☛ USBデバイスやUSBケーブルのコネクターを確実に接続してください。

? USBデバイスのオーディオファイルの音が出なくなった

✔ USBコネクターが抜けている。
☛ USBデバイスやUSBケーブルのコネクターを確実に接続してください。

? リムーブモードにならない

✔ 画像のダウンロードを行っている。
☛ 画像のダウンロード中は、リムーブモードにはなりません。

ミュージックディスク

? ディスクを取り出せない

✔ 車両のACCスイッチをオフにしてから10分以上経過したため。
☛ ACCスイッチをオフにしてからディスクを取り出せるのは10分以内です。10分以上経過した場合は、再度ACCをオンにしてから[▲]（イジェクト）ボタンを押してください。

✔ 画像のダウンロードを行っている。
☛ 画像のダウンロード中は、ディスクを取り出すことはできません。

? CDやオーディオファイルをプレイできない

✔ ディスクが異常に汚れている。
☛ 「メディアの取り扱い」（p10）を見て、ディスクをクリーニングしてください。

オーディオファイル

? 曲がスキップする

✔ 対応していないオーディオファイルをプレイした。
☛ www.kenwood.com/audiofile/を参照して、本機でプレイできるオーディオファイルに変換してください。

? オーディオファイルがプレイできない

✔ メニュー設定の“CD Read”項目を“2”に設定している。
☛ 「メニュー設定」（p46）を見て、“CD Read”項目を“1”に設定してください。

✔ ディスクに傷や汚れがある。
☛ 「メディアの取り扱い」（p10）を見て、ディスクをクリーニングしてください。

? 演奏時間表示が実際の演奏時間と一致しない

✔ オーディオファイルの記録された状況により、演奏時間が一致しないことがあります。
☛ —

? ファイルセレクトができない

✔ ランダムプレイをオンにしている。
☛ ランダムプレイをオフにしてください。（p20）

サウンドエフェクト／サウンドセットアップ

? サウンドエフェクト、サウンドセットアップで調整項目が表示されない項目がある。

✔ 「オーディオセットアップ」（p36）の“2 ZONE”項目の設定で調整できる項目が変わります。

機能	OFF	ON
「オーディオコントロール」(p30)		
“REAR VOLUME”	×	○
“SUBWOOFER LEVEL”	○	×
“FADER”	○	×
「サブウーファー出力コントロール」(p30)	○	×
「サウンドマネジメントシステム」(p37)	○	×
「キャビンの設定」(p37)	○	×
「スピーカーの設定」(p38)	○	×
「タイムアライメントの設定」(p38)	○	×
「クロスオーバーの設定」(p39)	○	×
「プリセットポジションの設定」(p32)	○	×
「マニュアルポジションの調整」(p33)	○	×
「dBイコライザー」(p30)	○	×
「dBイコライザープロの調整」(p31)	○	×
「WOW HDコントロール」(p32)	○	×
「ラウドネス」(p33)	○	×
「ユーザーメモリーの登録」(p34)	○	×
「ユーザーメモリーの呼び出し」(p35)	○	×

☛ ×：調整できない機能

✔ 「スピーカーの設定」（p38）の設定で調整できなくなる機能があります。

“REAR”の“SIZE”項目を“None”に設定する

機能	項目
「オーディオセットアップ」(p36)	“2 ZONE”
「タイムアライメントの設定」(p38)	“REAR”
「クロスオーバーの設定」(p39)	“REAR”
「dBイコライザープロの調整」(p31)	“REAR”
「WOW HDコントロール」(p32)	“REAR”
「マニュアルポジションの調整」(p33)	“REAR”

“SUB-W”の“SIZE”項目を“None”に設定する

機能	項目
「サブウーファー出力コントロール」(p30)	
「タイムアライメントの設定」(p38)	“SUB-W”
「クロスオーバーの設定」(p39)	“SUB-W”
「マニュアルポジションの調整」(p33)	“SW”

✔ 「オーディオコントロール」（p30）の“SUBWOOFER LEVEL”項目を調整できない。

☛ 下記のように設定します。

機能	設定
「オーディオセットアップ」(p36)の“2 ZONE”項目	“OFF”
「サブウーファー出力コントロール」(p30)	“SUB WOOFER ON”
「スピーカーの設定」(p38)の“SUB-W”項目	“None”以外に設定

✔ 「オーディオコントロール」（p30）の“NAV VOLUME”項目を調整できない。

☛ 下記のように設定します。

機能	設定
「メニュー設定」(p46)の“NAV Guide”項目	“INT”

✔ 「WOW HDコントロール」（p32）の“Space”、“Center”項目を調整できない。

☛ ラジオ、TVおよび交通情報ではSRS 3Dの調整はできません。

✔ 「WOW HDコントロール」（p32）の“Center”項目を調整できない。

☛ “Space”項目を“OFF”以外に設定してください。

✔ 「オーディオセットアップ」（p36）の“2 ZONE”項目を設定できない。

☛ iPodを接続していると設定できません。

Menu

? セキュリティコードを忘れた

✔ セキュリティコードを調べることはできません。

☛ ケンウッドサービスセンターにご相談ください。

? 画像のダウンロードができない

✔ USBデバイスまたはCD-R/RWの作成方法に原因があることがあります。

☛ www.kenwood.net-disp.comをご覧になり、USBデバイスまたはCD-R/RWを作成し直してください。

共通

AAC（エーエーシー）

正式名「Advanced Audio Coding」の略称です。
デジタル放送などに使用されている画像圧縮方法のオーディオ部分のみの圧縮規格です。
本書ではこの方式を使用したオーディオファイルを指す場合もあります。使用できるAAC収録メディアの種類やフォーマットなどは「Help? Audio file」（p60）をご覧ください。

KSF（ケイエスエフ）

外部接続された別売品のHDX-710などのハードディスクに記録されている音楽ファイルです。

LX BUS TVモニター（エルエックスバステレビモニター）

外部接続された別売品のテレビモニターやナビゲーションシステム（HDX-710など）です。

MP3（エムピースリー）

正式名「MPEG Audio Layer 3」の略称です。
MPEG AudioはDVDやVideo CDなどに使用されている画像圧縮方法のオーディオ部分のみの圧縮規格です。
本書ではこの方式を使用したオーディオファイルを指す場合もあります。使用できるMP3収録メディアの種類やフォーマットなどは「Help? Audio file」（p60）をご覧ください。

Music Editorメディア（ミュージックエディターメディア）

Music Editor で作成したCD-R/CD-RW/USBデバイスです。本機に付属のPCアプリケーションソフトウェアでプレイリスト機能などを追加できます。

WAV（ウェーブ）

米国マイクロソフト社と米国IBM社が開発した音声データフォーマットです。
Windowsでは標準の音声ファイル形式となっています。
本書ではこの方式を使用したオーディオファイルを指す場合もあります。使用できるWAV収録メディアの種類やフォーマットなどは「Help? Audio file」（p60）をご覧ください。

WMA（Windows Media™ Audio）

米国マイクロソフト社が開発した音声圧縮符号化方式「Windows Media™ Audio」の略称です。
本書ではこの方式を使用したオーディオファイルを指す場合もあります。使用できるWMA収録メディアの種類やフォーマットなどは「Help? Audio file」（p60）をご覧ください。

オフセットデュアルディファレンシャルD/A システム（Offset Dual Differential D/A System）

デジタル信号とオフセットした信号を作ります。
フロント信号を左右別々のD/Aコンバーターで処理することにより、セパレーションが良く、ノイズ、歪みの少ないアナログ音声に変換できるシステムです。

ディスクチェンジャー

外部接続された別売品のCDチェンジャー（KDC-C520、KDC-C406など）やマルチメディアプレーヤー（VD-C77）です。

サウンドエフェクト

Supreme（サプリーム）

低いビットレート（128kbps以下(サンプリング周波数=44.1kHz、48kHz)）でエンコードしたときに欠落してしまった高音域を、独自のアルゴリズムにより推定・補完する技術です。補完は圧縮フォーマット（AAC、MP3、またはWMA）別に最適化され、ビットレートに合わせて処理されます。
なお、オーディオファイルのフォーマットやエンコード時の設定の関係によっては、効果が分かりにくい場合があります。

SRS WOW HD

本機では、米国SRS社のWOW回路により、サウンドに大迫力の重低音を付加したり、立体的な音場にして再生することができます。

Preset WOW HD：FOCUS、TruBass、SRS 3DおよびDefinitionの値を一括で設定することができます。

FOCUS：フロントスピーカーの音像の位置を縦方向（上方向）に移動するとともに音の輪郭を調整します。

TruBass：原音に含まれている信号からバランスのとれた重低音を再現することができます。

SRS 3D：
奥行き感のある立体的な音場にすることができます。車室内のどこででも立体的で最適な音を聴くことができます。
Space Control：音の広がり感を調整します。
Center Control：ボーカルの音などセンターの音を調整します。

Definition：高域の音質を改善し明瞭にします。

オーディオコントロール

REAR VOLUME（リア音量）

デュアルゾーン機能使用時の、リア側の音量を調整します。

SUBWOOFER LEVEL（サブウーファー音量）

サブウーファーの音量を調整します。

dBイコライザー、dBイコライザープロ

BAND1 Effect（バンド1エフェクト）

この機能をONに設定すると、低音中心周波数より低域を増幅します。

FØ（エフゼロ：中心周波数）

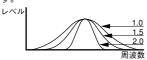
バンドごとに調整する周波数（中心周波数）を、この機能を使って設定することができます。

dBイコライザー（ダイナミックブーストイコライザー）

ジャンル別に設定された効果には以下のような特徴があります。

Natural：自然な音を再現します。
Rock：スピーディーで力強いアタック音を再現します。
Pops：中高域をメインにしたリズミカルな音を再現します。
Easy：中低域をベースにした味わい深いサウンドを再現します。
Top40：ビートの利いた音を再現します。
Jazz：ウッドベースの音階やボーカルの質感を鮮明に再現します。

Q（クォリティファクタ）

バンドごとにスロープを設定する機能です。設定値が大きくなるほどスロープの傾斜が大きくなります。

サウンドセットアップ

DTA（デジタルタイムアライメント）

フロント、リア、サブウーファーから出力される音を遅延させることにより、スピーカーの位置を擬似的にずらすことができる機能です。車種やスピーカー取り付け位置にとらわれずに最適な効果が得られます。

オーディオセットアップ

2 ZONE（デュアルゾーン）

デュアルゾーン機能とは、メインソースとサブソース（AUX入力）をフロントスピーカーとリアスピーカーに振り分けて出力する機能です。この機能のオン/オフを設定します。

- 内蔵AUX(サブソース)は、「メニュー設定」（p46）の“Zone 2”項目で設定します。
- メインソースは「ソースを切り替えます」（p13）で設定します。
- フロントの音量はVOLで調整します。
- リアの音量は「オーディオコントロール」（p30）の“REAR VOLUME”またはリモートコントローラーの“R.VOL”（p56）で調整します。

NAV VOLUME（ナビ音量）

カーナビゲーションの音声ガイド時の本機の音量を設定できます。

VOLUME OFFSET（ボリュームオフセット）

各ソースごとの音量の差を調整します。
これにより、ソースを切り替えても、ほぼ同じ音量で聴くことができます。

クロスオーバーの設定

FRONT fc/REAR fc（ハイパスフィルター）

設定された周波数（カットオフ周波数）よりも低い成分をカットします。
サブウファーを追加するときに、この機能を使って、出力から低域成分をカットして高域のみの音にします。“Through”に設定すると、この機能をオフにできます。

FRONT Slope/REAR Slope（ハイパスフィルタースロープ設定）

FRONT fc/REAR fcで設定した帯域の音をカットするときの減衰量を設定する機能です。
1オクターブあたりの減衰量をdBで設定します。
スピーカーに応じたスロープ設定により、特に超低域をカットすることにより、音にならない不要な振動を抑制できます。

SUBWOOFER fc（ローパスフィルター）

設定された周波数（カットオフ周波数）よりも高い成分をカットします。
サブウーファー出力をサブウーファー用として使用するときに、この機能を使って、出力から高域成分をカットして低域のみの音にします。“Through”に設定すると、この機能をオフにできます。

SUBWOOFER Slope（ローパスフィルタースロープ設定）

SUBWOOFER fcで設定した帯域の音をカットするときの減衰量を設定する機能です。
1オクターブあたりの減衰量をdBで設定します。

SUBWOOFER Phase（サブウーファーフェイズ）

サブウーファーの位相（正相/逆相）を設定します。

Menu

AMP（内蔵アンプ出力）

内蔵アンプの出力をオン/オフします。
フロントスピーカー、リアスピーカーともプリアウト端子にパワーアンプを接続してシステムを組んでいるようなときは、この機能を“OFF”に設定することにより、内蔵アンプの稼働を停止させることができます。
内蔵アンプの稼働を停止させると、プリアウトからの音声出力のクォリティをアップさせることができます。

Beep（ビープ）

ボタンを押したときに、押されたことが確認できるように“ピッ”音がする機能です。押してすぐ離したときには“ピッ”と鳴り、1秒以上または2秒以上押して機能をオンにしたときには“ピッピッ”と鳴ります。うるさく感じたときには“OFF”に設定することにより消すことができます。
なお、ビープ音はプリアウトからは出力されません。

Built in AUX（内蔵AUX入力）

AUX端子は、ポータブルオーディオやビデオ/ナビなどの外部機器の音声を本機に入力する端子です。
この機能は、内蔵AUX端子への音声入力をオン/オフします。
この機能をオンにすると、AUX端子から入力された音声は、AUXソースに切り替えることにより、本機で聴くことができます。
また、デュアルゾーン機能を使って、他のソースと同時に出力することもできます。
使用しないときはオフにしておいてください。

CD Read（CDリード）

CDの読み込み方法を設定します。
特殊なフォーマットのCDをプレイ時に、正常にプレイができない場合に“2”を設定すると強制的にCDをプレイすることができる機能です。なお、“2”に設定しても、音楽CDによってはプレイできない場合があります。また、“2”に設定するとオーディオファイルのプレイはできなくなります。通常は“1”でお使いください。
1：ディスクのプレイ時にオーディオファイルのディスクと音楽CDを自動的に識別します。
2：音楽CDとして強制的にプレイします。

Dimmer（ディマー）

車両のライトスイッチに連動して、ディスプレイの明るさが自動的に切り替わります。

Display（ディスプレイ）

本機の操作を5秒間行わないと、ディスプレイを消すことができます。これにより、車両ウィンドウへのディスプレイの写り込みを防ぐことができます。
ただし、各設定モード中などは5秒経過しても、ディスプレイは消えません。
下記の操作は、直接動作します。
ボリューム、アッテネーター、ソースの切り替え、ディスクの取り出し、USBリムーブモード、電源を切る

Display N/P（ディスプレイ反転、ポジ固定）

ディスプレイの表示設定が固定表示（文字表示など）のとき、または壁紙表示を固定したときに本機を約60秒間操作しないと自動的に表示部が反転する機能です。表示を切り替えることにより表示部の明るさを長時間継続できます。ディスプレイの反転表示は10秒間隔で行われます。解除するときは、“POSI”にします。

DSI（ディセイブルシステムインジケーター）

セキュリティインジケータをオン/オフします。
この機能をオンにしておくと、パネルを外したときにLEDが点滅し、盗難防止警告ランプの代用として使用できます。

F/W Version（ファームウェアバージョン）

ドライブユニットのファームウェアのバージョンを表示します。

MONO（モノラル設定）
この機能でFMステレオ放送をモノラル音声にすることができます。
受信状態の悪いFM放送局を聴いているときに、音声をモノラルにすると雑音が軽減されて聞き易くなるときがあります。

Name Set（ネームセット）
FM/AM（ラジオ）ソースでは、放送局に名前を付けます（SNPS）。
CDソースでは、ディスクに名前を付けます（DNPS）。
AUXソースでは、AUXソースの名前を変更できます（AUXネーム）。

NAV Guide（ナビガイド）
カーナビゲーションの音声ガイド時の本機の動作を設定することができます。この機能を使用する場合は、本機とナビゲーションシステムのラインミュート端子またはミュート端子を接続してください。
ATT：ナビ音声ガイド時は、オーディオの音を小さくします。
INT：ナビ音声ガイドをフロントスピーカーから出力します。
この機能を"INT"に設定して、ナビ音声ガイドの割り込みをする場合は、「接続」（p72）を参照して、AUX入力にナビゲーションシステムを接続してください。
ケンウッド製カーナビゲーションシステムを接続してこの機能を使用する場合は、ナビゲーションシステムの「オーディオATT」機能をオン、または「オーディオ接続設定」機能を設定してください。
また、2001年以前に発売のケンウッド製ナビゲーションシステムを接続している場合は「音声割り込み」機能もオンに設定してください。
なお、この機能は1997年以前に発売のケンウッド製ナビゲーションシステムやケンウッド製以外のカーナビゲーションで使用すると正常に動作しない場合があります。

iPod Mode（アイポッドモード）
「ファイルセレクト」（p21）でiPod内の曲を探すときの操作方法を設定します。
ON：iPodの操作に近い操作方法になります。
OFF：iPod以外の操作方法になります。

Scroll（スクロール）
ディスプレイにディスク/トラックタイトル、ディスク/トラックテキスト、グループタイトル、フォルダネーム、ファイルネーム、曲タイトル/アーティスト名またはアルバム名を選択しているとき、文字数が多いため表示しきれない場合にスクロールして表示する機能です。
この機能を"Auto"に設定しておくとスクロール表示を繰り返し行い、"Manual"に設定しておくと表示が変わったときだけ1回スクロール表示するようにできます。

Security Set（セキュリティコードセット）/ Security Clear（セキュリティコードクリア）
セキュリティコードを設定/解除します。
セキュリティコードを設定しておくと、本機の電源コードを外したときやリセットボタンを押したときなどの、次に初めて使うときは、設定したセキュリティコードを入力しないと電源がオンできないようになります。すなわち、本機を車両から外したときは、セキュリティコードの入力が必要になるため、盗難防止の手助けとなります。

Seek Mode（チューニングモード）
放送局の探し方を設定することができます。
Auto1: 受信状態の良い放送局を自動的に選びます。
Auto2: メモリーされている放送局を番号順に受信します。
Manual: 1ステップずつ周波数が変わります。

SRC Select（ソースセレクト）
ソース（音源）を選択する操作方法を設定します。
操作方法は「ソースを切り替えます」（p13）をご覧ください。
1：ソースアイコンを表示して、コントロールノブでダイレクトに選ぶことができます。
2：ソースを順に切り替えて選択します。

Zone 2（ゾーン2）
デュアルゾーン機能がオンのときのサブソース（内蔵AUX入力）の出力先（フロントスピーカーまたはリアスピーカー）を設定します。

漢字優先
CDテキストなどが漢字およびカタカナまたはローマ字で記録されているディスクを聴いているときに、これらを漢字で表示するか、カタカナまたはローマ字で表示するか設定ができます。
ON：漢字で表示(漢字が登録されていない場合は、カタカナまたは英/数文字で表示)
OFF：カタカナまたは英/数文字で表示

無効な操作を以下のように表示してお知らせします。

Blank Disc：
演奏しようとしたMDにデータが1つも記録されていません。

Copy Protection：
プレイしようとしたオーディオファイルは、コピープロテクトされています。

Eject：
- ディスクマガジンがセットされていません。
- ディスクマガジンが完全に入っていません。
など

Error 05：
ディスクが裏返しです。

Error 12：
演奏しようとしたMDがデータ用MDです。

Name Exists. Raname...：
Name Exists. Auto Rename?：
音楽CDの録音時に入力した名前が既に存在している。または、USBデバイスからの転送時に同じ名前のファイルまたはフォルダが既に存在している。
➡ 別の名前に変えるか、既にあるファイルを削除してから録音または転送してください。

No Disc：
ディスクマガジンにディスクが1枚も入っていません。

No Name：
DNPSを登録していないCDでDNPS表示している。

No Track Disc：
演奏しようとしたMDに何も録音されていません。

Over Capacity：
音楽CDの録音中またはUSBデバイスからの転送中に、内蔵メモリーの空き容量が不足したため、録音または転送を中止した。
➡ 不要なファイルを削除してから録音または転送してください。

Read Error：
- 接続しているUSBデバイスに、制限されている数を超えるファイルやフォルダが記録されている。
- 接続しているUSBデバイスのファイルシステムが破損している。

➡ URL：http://www.kenwood.com/usb/をご覧になり、USBデバイスのファイル、フォルダをコピーしなおしてください。その後もエラー表示が消えない場合は、USBデバイスをフォーマットするか、他のUSBデバイスを使用してください。

TOC Error：
- ディスクが異常に汚れています。
- ディスクに傷が多く付いています。
- ディスクが裏返しになっています。
- ディスクチェンジャーにディスクが入っていません。
- ディスクチェンジャーにトレイが入っていません。

Unsupported File：
サポートされていないフォーマットのオーディオファイルをプレイしようとしました。

システムの状態を以下のように表示してお知らせします。

Checking（点滅）：
データの読み込み中です。

Copy Error：
- 転送できないデジタルオーディオプレーヤーで操作した。
- USBデバイスの接続が解除されたなどして、転送できなくなった。

Delete ErrorまたはFormat Error：
削除またはフォーマットが、何らかの原因で正常に行えない。
➡ もう一度操作してください。時間がかかる場合があります。再度、表示される場合はお近くのケンウッドサービス窓口へご相談ください。

DEMO MODE（点滅）：
本機の機能をディスプレイに表示するデモンストレーションモード中です。解除するにはデモンストレーションモードをオフ（p51）にしてください。

Error 77：
何らかの原因で正常に動作していない。
➡ 本機のリセットボタンを押してください。“Error 77”の表示が消えない場合、お近くのケンウッドサービス窓口へご相談ください。

Hold Error：
ディスクチェンジャーの内部温度が60℃以上になると保護回路が働き、動作しなくなることがあります。このときこの表示が出ます。

➡ ディスクチェンジャーの取り付け場所の温度を下げてから使用してください。

Import Error :

CDにキズなどがあり、録音を中止した。

IN インジケーター（点滅）：

CDプレーヤーが正常に動作していない。

➡ CDを取り出してから、CDを入れなおしてください。

iPod Error :

iPodとの接続に不具合が発生しています。

➡ iPodをKCA-iP200から取り外し、接続しなおしてください。

➡ iPodのソフトウェアを最新のものにアップデートしてから接続してください。

Load（点滅）:

ディスクチェンジャー内のディスクを交換中です。

Mecha Error :

何らかの原因で正常に動作していない。

➡ [⏏]（イジェクト）ボタンを押してください。イジェクトボタンを押しても表示が消えないときは本機のリセットボタンを押してください。なお、表示が消えない場合、お近くのケンウッドサービス窓口へご相談ください。

No Device :

USBデバイスが接続されていないときにUSBソースにした。

No Music Data または Error 15 :

挿入したCD、接続されているUSBデバイスまたは内蔵メモリー内には、プレイできるフォーマットのオーディオファイルがありません。

N/A Device :

サポートされていないUSBデバイスを接続した。

➡ サポートされているUSBデバイスについては「Help? Audio file」（p60）を参照してください。

Protect（点滅）：

スピーカーコードがショートまたは車両のシャーシーに接触したために、保護回路が働きました。

➡ スピーカーコードを適切に配線/絶縁しなおしてから、リセットボタンを押してください。

Reading（点滅）：

ディスクまたはUSBデバイスに収録されているデータのチェック中です。

SECURITY ---- :

セキュリティコード入力要求表示です。

USB REMOVE（点滅）：

USBデバイスがリムーブモードになっています。USBデバイスが安全に取り外せます。

USB ERROR（点滅）：

- 供給できる電流容量を超えたUSBデバイスが接続されています。

➡ サポートされているUSBデバイスについては「Help? Audio file」（p60）を参照してください。

- 接続されているUSBデバイスに不具合が発生した可能性があります。

➡ USB以外のソースに切り替えて、USBデバイスを取り外します。再度、USBソースに切り替えます。

画像のダウンロード中の異常を以下のように表示してお知らせします。

Can't Download または Download Error :

- ファイルのダウンロード中に読み込みに失敗した。

➡ 再度ダウンロードを行ってください。

- 何らかの原因で正常に動作していない。

➡ 再度ダウンロードを行ってください。再度、表示される場合はお近くのケンウッドサービス窓口へご相談ください。

Incorrect File :

使用できないフォーマットのファイルをダウンロードしようとした。

➡ USBデバイスまたはCD-R/RWを作成し直してください。

No Display File :

USBデバイスまたはCD-R/RWにダウンロードが可能なファイルがない。

➡ URL：http://www.kenwood.net-disp.com/で作成したUSBデバイスまたはCD-R/RWにダウンロード可能なファイルが入っていることを確認してください。なお、作成時についている拡張子（.kbmまたは.KBM）は削除しないでください。

Writing Error :

ファイルの書き込みに失敗した。

➡ 再度ダウンロードを行ってください。

取り付け時のご注意

⚠警告

禁 止

大型トラックや寒冷地仕様のディーゼル車などの24V車で使用しないでください。火災などの原因となります。本製品はDC12V⊖アース車専用です。

実 施

配線作業中は、バッテリーの⊖端子を外してから行ってください。ショート事故による感電やケガの原因となります。

実 施

本製品の配線は必ず、取扱説明書に記載してある通りに行ってください。配線を間違えますと、火災、その他の事故の原因となります。

禁 止

コードの被覆を切って、他の機器の電源を取ることは絶対にお止めください。リード線の電流容量をオーバーし、火災・感電の原因となります。

禁 止

本製品を前方の視界を妨げる場所や、運転操作を妨げる場所、同乗者に危険を及ぼす場所には取り付けないでください。交通事故やケガの原因となります。

実 施

本製品を取り付けの際には、必ず付属の取付用部品をご使用ください。取付用付属品をご使用にならないと、製品内部を壊し、ショート事故による火災が起こるおそれがあります。
また、取り付け不備により運転中に製品が外れて人に当たるなど、ケガの原因となります。

禁 止

アースコードを、ステアリング部やブレーキライン系統などの重要保安部品のボルトやナットに取り付けないでください。事故などの原因となります。

禁止

車両電源配線用コード以外で延長しないでください。コードの被覆が破れやすく、ショート・発熱事故による火災が起こるおそれがあります。また、電流容量オーバーにより、火災が起こるおそれがあります。

実施

車両の板金部の近くを通るコードには、保護用テープを巻いてください。
コードが切れると、ショート事故により、火災となるおそれがあります。

実施

バッテリー電源（黄）を接続する車両側電源のヒューズ容量が、本機のヒューズ容量（10A）以上であることを確認してください。
また、別売品のパワーアンプなどを接続する場合は、それらと本機との総ヒューズ容量が車両側のヒューズ容量以下であることを確認してください。もし、超える場合には、バッテリーから直接電源を取ってください。
車両側のヒューズ容量を超える電源を接続すると、リード線の電流容量オーバーにより、火災などの事故の原因となります。

実施

電源端子およびスピーカー端子のカバーが、端子の先端より長い場合は、接続が不完全になる場合があります。このような場合は、カバーの長さを端子の長さと同じになるように切り取ってください。

注意

車体に穴を開けて取り付ける際は、パイプ類・タンク・電気配線などの位置を確認のうえ、これらと当たったり接触することがないようにしてください。火災の原因になります。

実施

本製品の取り付け終了後に、車のブレーキランプ、ヘッドランプ、ウィンカー、ワイパーなどが正常に動作することを確認してください。正常に動作しない場合は、正常に動作するように取り付けをやり直してください。

注意

本製品、または車両のヒューズが切れたときは、コードがショートしていないことを確認後、必ずヒューズに表示されている容量（アンペア数）の新しいヒューズと交換してください。規定容量以外のヒューズを使用しますと、火災の原因になります。

実施

事故防止のため、電池やネジなどの小物類は幼児の手の届かないところに保管してください。万一飲み込んだ場合は、直ちに医師に相談してください。

注意

本製品を使用直後は、本体の背面や側面などの金属部分が熱くなっています。直接触ることはお止めください。火傷をする場合があります。

接続

初めにエンジンキーが抜かれていることを確認後、ショート事故防止のため必ずバッテリーの⊖端子を外してください。

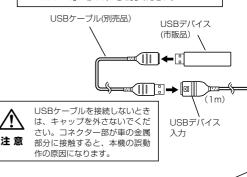
1. エンジンキーを抜きます。
2. 各セットの入・出力コードを確かめて接続します。
3. 電源ハーネスのスピーカーコードを接続します。
4. 電源ハーネスをアースコード（黒）、バッテリー電源コード（黄）、アクセサリー電源コード（赤）の順に接続します。
5. 電源ハーネスのコネクターを本機に接続します。
6. 取り付け終了後に、バッテリーの⊖端子を接続します。
7. 電源をオンします。
8. 本機のリセットボタン（p9）を押します。

● USBケーブルを延長するときは、CA-U1EX（別売品）の使用を推奨します。詳しくは「Help? Audio file」（p60）をご覧ください。

注 意

USBケーブルを接続しないときは、キャップを外さないでください。コネクター部が車の金属部分に接触すると、本機の誤動作の原因になります。

ヒューズ（10A）

注 意

ヒューズが切れたときは、コードがショートしていないことを確認後、**ヒューズに表示されている容量（アンペア数）の新しいヒューズと交換してください。**規定容量以外のヒューズを使用すると、火災の原因になります。

注 意

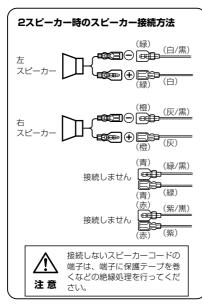
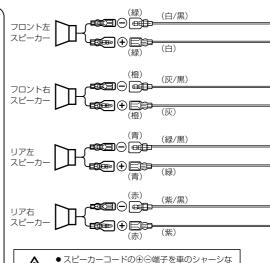
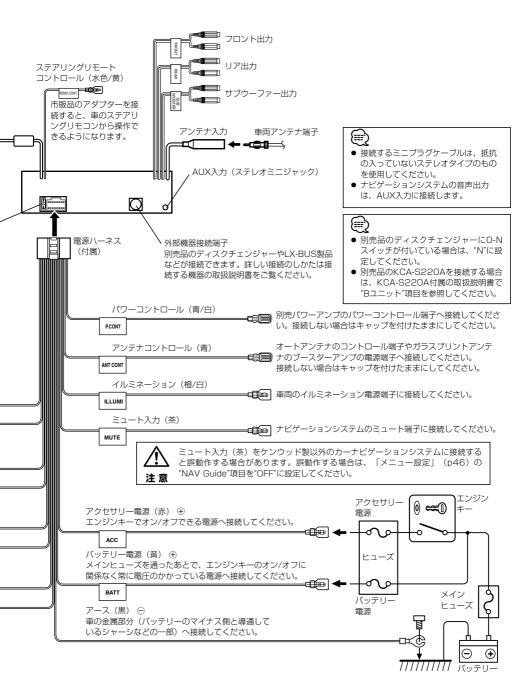
接続しないスピーカーコードの端子は、端子に保護テープを巻くなどの絶縁処理を行ってください。

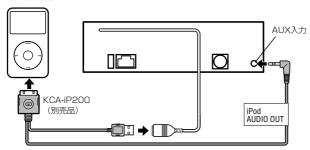
注 意

● スピーカーコードの⊕⊖端子を車のシャーシなどに接触させないでください。
● 複数のスピーカーコードの⊖端子を共通にして接続しないでください。

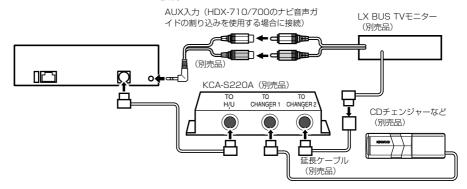
- 接続するミニプラグケーブルは、抵抗の入っていないステレオタイプのものを使用してください。
- ナビゲーションシステムの音声出力は、AUX入力に接続します。

- 別売品のディスクチェンジャーにO-Nスイッチが付いている場合は、“N”に設定してください。
- 別売品のKCA-S220Aを接続する場合は、KCA-S220A付属の取扱説明書で“Bユニット”項目を参照してください。

注 意
ミュート入力（茶）をケンウッド製以外のカーナビゲーションシステムに接続すると誤動作する場合があります。誤動作する場合は、「メニュー設定」（p46）の“NAV Guide”項目を“OFF”に設定してください。

iPodの接続

KCA-iP200（別売品）を使用して本機にiPodを接続します。

- iPodの接続時には、AUX入力とUSB端子を使用します。このため、iPod使用時は、これらの端子にほかの機器を接続して使用することはできません。
- iPodの接続時には、下記の機能を使用することはできません。
  -「オーディオセットアップ」（p36）のデュアルゾーン機能（“2 ZONE“）
  -「メニュー設定」（p46）の“Built in AUX”項目の設定
  -「メニュー設定」（p46）の“NAV Guide”項目の“INT“設定

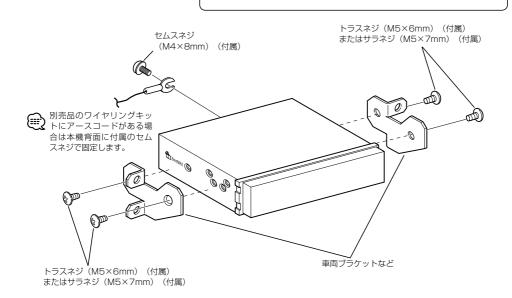
KCA-S220A（別売品）を使ってLX BUS TVモニターを接続する場合

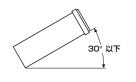
- LX BUS TVモニターは、KCA-S220Aの“TO CHANGER2”端子に接続してください。
- HDX-710/700でナビ音声ガイドの割り込みを行う場合は「メニュー設定」（p46）の“NAV　Guide”項目を“INT”にして、LX BUSケーブルを接続してください。

取り付け

付属のトラスネジ（M5×6mm）またはサラネジ（M5×7mm）を4本使用して車両ブラケットなどに取り付けます。

付属ネジ	個数
トラスネジ (M5 × 6 mm)	4
サラネジ (M5 × 7 mm)	4
セムスネジ (M4 × 8 mm)	1

注 意

取り付けには必ず付属のネジをご使用ください。
付属以外の長いネジを使用すると、本機内部が破壊したり、発煙することがあります。また、短いネジを使用すると、本機が取付ブラケットなどから外れることがあります。
なお、取り付けネジはトラスネジまたはサラネジが付属しています。車両に合ったネジをご使用ください。

注 意

- **本機の取り付け角度は30˚以下になるように取り付けてください。30˚以上の角度で取り付けると音飛びの原因になります。**
- **操作パネルを持って取り付け/取り外しをしないでください。破損することがあります。**

- 別売品のワイヤリングキットや取り付けキットを使用することにより、車にベストフィットした取り付けができます。キットは取り付ける車種に応じて用意されています。詳しくは販売店にお問い合わせください。

保証とアフターサービス　必ずお読みください

保証について

● **保証書**

この製品には、保証書を添付しております。
保証書は、必ず「お買い上げ日・販売店」等の記入をお確かめのうえ、販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの後、大切に保管してください。

● **保証期間**

お買上げの日より1年です。

修理を依頼されるときは

「Help?　Troubleshooting」を参照してお調べください。それでも異常があるときは、製品の電源をオフにして、お買い上げの販売店またはケンウッドサービスセンター、サービスステーション、営業所にお問い合わせください。（別紙“ケンウッド全国サービス網”をご参照ください。）

修理に出された場合は、お客様が登録、設定したメモリー内容がすべて消去されることがあります。あらかじめご了承ください。

● **保証期間中は...**

保証書の規定に従って、お買い上げの販売店またはケンウッドサービスセンター、サービスステーション、営業所が修理させていただきます。ご依頼の際は保証書をご提示ください。
本機以外の原因（衝撃や水分、異物の混入など）による故障の場合は、保証対象外になります。詳しくは保証書をご覧ください。

● **保証期間経過後は...**

お買い上げの販売店またはケンウッドサービスセンター、サービスステーション、営業所にご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料にて修理いたします。
補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後6年です。
（補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。）

● **持込修理**

この製品は持込修理とさせて頂きます。

- 本機をお持ちになるときは、接続しているユニットも一緒にお持ちください。
（本機や一緒に持ち込まれるユニット内のディスクなどのメディアはあらかじめ取り出してください。）
- 製品を修理に持ち込まれる際は、輸送中に傷が付くのを防ぐため、包装してください。

● **修理料金のしくみ**（有料修理の場合は、つぎの料金が必要です。）

- 技術料：**故障した製品を正常な状態に修復するための料金です。**
技術者の人件費、技術教育費、測定器等設備費、一般管理費等が含まれます。
- 部品代：**修理に使用した部品代です。**
その他修理に付帯する部材等を含む場合があります。

なお、アフターサービスについてご不明な点は、お買上げの販売店またはケンウッドサービスセンター、サービスステーション、営業所にご遠慮なくお問い合わせください。

仕様一覧

FMチューナー部

受信周波数範囲（周波数ステップ）
：76.0 MHz～90.0 MHz（100 kHz）
実用感度（S/N：30 dB）
：9.3 dBf（0.8 μV/75 Ω）
S/N 50 dB感度
：15.2 dBf（1.6 μV/75 Ω）
周波数特性（±3.0 dB）
：30 Hz～15 kHz
S/N比
：70 dB （MONO）
選択度（±400 kHz）
：80 dB以上
ステレオセパレーション
：40 dB（1 kHz）

AMチューナー部

受信周波数範囲（周波数ステップ）
：522 kHz～1629 kHz（9 kHz）
感度
：28 dBμ（25 μV）

CDプレーヤー部

レーザーダイオード
：GaAlAs
デジタルフィルター（D/A）
：8倍オーバーサンプリング
D/Aコンバーター
：1Bit
回転数（オーディオファイル）
：1000～400 rpm（線速度一定・倍速）
ワウ& フラッター
：測定限界以下
周波数特性
：10 Hz～20 kHz（±1 dB）
高調波歪率
：0.008 % （1 kHz）
S/N比
：110 dB （1 kHz）
ダイナミックレンジ
：93 dB
MP3デコード
：MPEG-1/2 Audio Layer-3準拠
WMAデコード
：Windows Media™ Audio 準拠
AACデコード
：AAC-LC形式 “.m4a” ファイル
WAVデコード
：Linear-PCM

USB I/F部

USB規格
：USB 1.1/2.0
最大供給電流
：500 mA
ファイルシステム
：FAT16/32
MP3デコード
：MPEG-1/2 Audio Layer-3準拠
WMAデコード
：Windows Media™ Audio 準拠
AACデコード
：AAC-LC形式 “.m4a” ファイル
WAVデコード
：Linear-PCM

AUX入力

周波数特性
：20 Hz～20 kHz （±1 dB）
最大入力電圧
：1200 mV
入力インピーダンス
：100 kΩ

オーディオ部

最大出力
：50 W × 4
定格出力
：30 W × 4（4Ω、1kHz、10%THD以下）
スピーカーインピーダンス
：4～8 Ω
プリアウトレベル（CD/CD-CH）
：5000 mV/10 kΩ
プリアウトインピーダンス
：80 Ω以下
オーディオコントロール
Band 1：60 Hz～200 Hz ± 9dB
Band 2：250 Hz～1 kHz ± 9dB
Band 3：1.25 kHz～4 kHz ± 9dB
Band 4：5 kHz～16 kHz ± 9dB

電源部

電源電圧
：14.4 V （11～16 V）
最大消費電流
：10 A

寸法・質量

埋込寸法（W × H × D）
：178 × 50 × 160 mm
質量（重さ）
：1.5 kg

付属部品

電源ハーネス
：1本
トラスネジ（M5 × 6 mm）
：4本
サラネジ（M5 × 7 mm）
：4本
セムスネジ（M4 × 8 mm）
：1本
リモコン
：1個
乾電池
：2個（単３型）
Music Editor
CD-ROM：1枚
インストール説明書：1冊

※これらの仕様およびデザインは、技術開発にともない予告なく変更になる場合があります。

KENWOOD

株式会社 ケンウッド

〒 192-8525　東京都八王子市石川町 2967-3

● 商品に関するお問い合わせは、カスタマーサポートセンターをご利用ください。

ナビダイヤル　0570-010-114（一般電話・公衆電話からは、どこからでも市内通話料金でお問い合わせが可能です）
携帯電話、PHS、IP電話からは 045-933-5133

FAX　045-933-5553

住所　〒226-8525 神奈川県横浜市緑区白山1-16-2

受付時間　月曜〜金曜　9:30〜18:00
土曜　9:30〜12:00、13:00〜17:30
（日曜、祝日および当社休日は休ませていただきます）

● 修理などアフターサービスについては、お買い上げの販売店か、または、別紙「ケンウッド全国サービス網」をご参照のうえ、最寄りのサービスステーション、サービスセンター、各営業所にご相談ください。